

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2004年 9月22日

出願番号
Application Number: 特願2004-275152

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

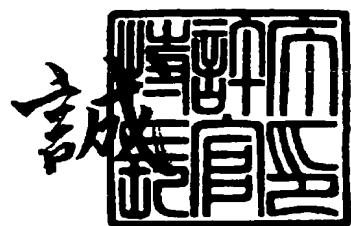
出願人
Applicant(s): 株式会社デンソー

J P 2004-275152

2005年10月26日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

中嶋誠



BEST AVAILABLE COPY

【宣誓欄】
【整理番号】 1P09361
【提出日】 平成16年 9月22日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 F25B 1/00
【発明者】
【住所又は居所】 愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 株式会社デンソー内
【氏名】 押谷 洋
【発明者】
【住所又は居所】 愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 株式会社デンソー内
【氏名】 武内 裕嗣
【特許出願人】
【識別番号】 000004260
【氏名又は名称】 株式会社デンソー
【代理人】
【識別番号】 100100022
【弁理士】
【氏名又は名称】 伊藤 洋二
【電話番号】 052-565-9911
【選任した代理人】
【識別番号】 100108198
【弁理士】
【氏名又は名称】 三浦 高広
【選任した代理人】
【識別番号】 100111578
【弁理士】
【氏名又は名称】 水野 史博
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 038287
【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1

【請求項 1】

冷媒を吸入し圧縮する圧縮機（12）と、

前記圧縮機（12）から吐出された高圧冷媒の放熱を行う放熱器（13）と、

前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させるノズル部（14a）、前記ノズル部（14a）から噴射する高い速度の冷媒流により気相冷媒が内部に吸引される気相冷媒吸引口（14c）、および前記高い速度の冷媒流と前記気相冷媒とを混合した冷媒流の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する昇圧部（14b）を有するエジェクタ（14）と

冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮するとともに、冷媒流出側が前記圧縮機（12）の吸入側に接続される第1蒸発器（15）と、

前記放熱器（13）と前記エジェクタ（14）との間で冷媒流れを分岐して、この冷媒流れを前記気相冷媒吸引口（14c）に導く第1分岐通路（17）と、

前記第1分岐通路（17）に配置され、前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させる第1絞り手段（18）と、

前記第1分岐通路（17）において、前記第1絞り手段（18）よりも冷媒流れ下流側に配置され、冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第2蒸発器（19）とを備え、

前記第2蒸発器（19）の冷媒蒸発圧力は前記第1蒸発器（15）の冷媒蒸発圧力よりも低くなっている、

前記第1絞り手段（18）は、前記第2蒸発器（19）の除霜時に前記第1分岐通路（17）を全開する全開機能付きの構成になっていることを特徴とするエジェクタサイクル。

【請求項 2】

冷媒を吸入し圧縮する圧縮機（12）と、

前記圧縮機（12）から吐出された高圧冷媒の放熱を行う放熱器（13）と、

前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させるノズル部（14a）、前記ノズル部（14a）から噴射する高い速度の冷媒流により気相冷媒が内部に吸引される気相冷媒吸引口（14c）、および前記高い速度の冷媒流と前記気相冷媒とを混合した冷媒流の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する昇圧部（14b）を有するエジェクタ（14）と

冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮するとともに、冷媒流出側が前記圧縮機（12）の吸入側に接続される第1蒸発器（15）と、

前記放熱器（13）と前記エジェクタ（14）との間で冷媒流れを分岐して、この冷媒流れを前記気相冷媒吸引口（14c）に導く第1分岐通路（17）と、

前記第1分岐通路（17）に配置され、前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させる第1絞り手段（180）と、

前記第1分岐通路（17）において、前記第1絞り手段（180）よりも冷媒流れ下流側に配置され、冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第2蒸発器（19）と、

前記圧縮機（12）から吐出された高圧冷媒を直接前記第2蒸発器（19）に導入するバイパス通路（23）と、

前記バイパス通路（23）に設けられたシャット機構（24）とを備え、

前記第2蒸発器（19）の冷媒蒸発圧力は前記第1蒸発器（15）の冷媒蒸発圧力よりも低くなっている、

前記シャット機構（24）は、前記第2蒸発器（19）の除霜時に前記バイパス通路（23）を開放状態にする常閉式の構成になっていることを特徴とするエジェクタサイクル。

【請求項 3】

冷媒を吸入し圧縮する圧縮機（12）と、

前記圧縮機（12）から吐出された高圧冷媒の放熱を行う放熱器（13）と、

前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させるノズル部（14a）、前記ノズル部

引口（14c）、および前記高い速度の冷媒流と前記気相冷媒とを混合した冷媒流の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する昇圧部（14b）を有するエジェクタ（14）と、

冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮するとともに、冷媒流出側が前記圧縮機（12）の吸入側に接続される第1蒸発器（15）と、

前記放熱器（13）と前記エジェクタ（14）との間で冷媒流れを分岐して、この冷媒流れを前記気相冷媒吸引口（14c）に導く第1分岐通路（17）と、

前記第1分岐通路（17）に配置され、前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させる第1絞り手段（180）と、

前記第1分岐通路（17）において、前記第1絞り手段（180）よりも冷媒流れ下流側に配置され、冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第2蒸発器（19）と、

前記第1絞り手段（180）をバイパスするバイパス通路（33）と、

前記バイパス通路（33）に設けられたシャット機構（34）とを備え、

前記第2蒸発器（19）の冷媒蒸発圧力は前記第1蒸発器（15）の冷媒蒸発圧力よりも低くなっている、

前記シャット機構（34）は、前記第2蒸発器（19）の除霜時に前記バイパス通路（33）を開放状態にする常閉式の構成になっていることを特徴とするエジェクタサイクル。

【請求項4】

前記第1蒸発器（15）と同じ温度帯で冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第3蒸発器（27）を備えていることを特徴とする請求項1ないし3のいずれか1つに記載のエジェクタサイクル。

【請求項5】

前記第1分岐通路（17）のうち、前記第1絞り手段（18、180）の上流部位から冷媒流れを分岐し、この冷媒流れを前記第1蒸発器（15）の冷媒流出側と前記圧縮機（12）の吸入側との間に合流させる第2分岐通路（25）と、

前記第2分岐通路（25）に配置され、冷媒を減圧する第2絞り手段（26）とを備え、

前記第2分岐通路（25）において、前記第2絞り手段（24）よりも冷媒流れ下流側部位に前記第3蒸発器（27）を配置したことを特徴とする請求項4に記載のエジェクタサイクル。

【請求項6】

前記第1蒸発器（15）は前記エジェクタ（14）の冷媒流出側に接続されることを特徴とする請求項1ないし5のいずれか1つに記載のエジェクタサイクル。

【請求項7】

前記放熱器（13）の冷媒流出側と前記第1蒸発器（15）の冷媒流入側との間に第3絞り手段（30）を設け、前記エジェクタ（14）を前記第3絞り手段（30）と並列に設けることを特徴とする請求項1ないし5のいずれか1つに記載のエジェクタサイクル。

【請求項8】

前記第2蒸発器（19）の除霜時に前記エジェクタ（14）の上流部をシャットするシャット機構（31）を備えることを特徴とする請求項1ないし7のいずれか1つに記載のエジェクタサイクル。

【請求項9】

前記第2蒸発器（19）の除霜時に前記放熱器（13）の上流部をシャットするシャット機構（32）を備えることを特徴とする請求項2に記載のエジェクタサイクル。

【請求項10】

冷媒を吸入し圧縮する圧縮機（12）と、

前記圧縮機（12）から吐出された高圧冷媒の放熱を行う放熱器（13）と、

前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させるノズル部（14a）、前記ノズル部

引口（14c）、および前記高い速度の冷媒流と前記気相冷媒とを混合した冷媒流の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する昇圧部（14b）を有するエジェクタ（14）と、

前記エジェクタ（14）から流出した冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第1蒸発器（15）と、

前記第1蒸発器（15）から流出した冷媒の気液を分離して液相冷媒を溜めるとともに、気相冷媒を前記圧縮機（12）の吸入側に導出する気液分離器（35）と、

前記気液分離器（35）の液相冷媒の出口部を前記気相冷媒吸引口（14c）に接続する分岐通路（36）と、

前記分岐通路（36）に配置され、前記気液分離器（35）から流出した前記液相冷媒を減圧膨張させる絞り手段（180）と、

前記分岐通路（36）において、前記絞り手段（180）よりも冷媒流れ下流側に配置され、冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第2蒸発器（19）と、

前記圧縮機（12）から吐出された高圧冷媒を直接前記第2蒸発器（19）に導入するバイパス通路（23）と、

前記バイパス通路（23）に設けられたシャット機構（24）とを備え、

前記第2蒸発器（19）の冷媒蒸発圧力は前記第1蒸発器（15）の冷媒蒸発圧力よりも低くなっている、

前記シャット機構（24）は、前記第2蒸発器（19）の除霜時に前記バイパス通路（23）を開放状態にする常閉式の構成になっていることを特徴とするエジェクタサイクル。

【技術分野】

【0001】

本発明は、冷媒減圧手段および冷媒循環手段の役割を果たすエジェクタを有するエジェクタサイクルに関するものであり、例えば、車両用空調冷蔵装置の冷凍サイクルに適用して有効である。

【背景技術】

【0002】

本出願人は、特許文献1において冷媒減圧手段および冷媒循環手段の役割を果たすエジェクタを使用した蒸気圧縮式冷凍サイクル（エジェクタサイクル）を提案している。この特許文献1では、エジェクタと、エジェクタ下流側に配置される気液分離器との間に第1蒸発器を配置するとともに、気液分離器の液相冷媒出口側とエジェクタの冷媒吸引口側との間に第2蒸発器を設けるものが実施形態の1つとして記載されている。

【0003】

また、本出願人は、特願2004-87066号の特許出願において、エジェクタの冷媒流出側に第1蒸発器を配置し、また、圧縮機吐出冷媒の放熱を行う放熱器とエジェクタとの間で冷媒流れを分岐する分岐通路を設け、この分岐通路の冷媒流出側をエジェクタの気相冷媒吸引口に接続するとともに、この分岐通路に絞り手段を設け、この絞り手段よりも冷媒流れ下流側に第2蒸発器を配置した蒸気圧縮式冷凍サイクル（エジェクタサイクル）を提案している。

【特許文献1】特許第3322263号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、上記特許文献1および先願において、第2蒸発器は第1蒸発器よりも冷媒蒸発圧力が低いので、冷媒蒸発温度が0℃より低い条件にて運転されることがある。従って、第2蒸発器のフロスト（霜付き）による冷却性能の低下が課題となる。しかし、上記特許文献1および先願では除霜手段について提案されていない。

【0005】

本発明は、上記点に鑑み、複数の蒸発器を備える、エジェクタを使用した蒸気圧縮式冷凍サイクルにおいて、簡素な構成で蒸発器の除霜機能を達成できるようにすることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するため、請求項1に記載の発明では、冷媒を吸入し圧縮する圧縮機（12）と、

前記圧縮機（12）から吐出された高圧冷媒の放熱を行う放熱器（13）と、

前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させるノズル部（14a）、前記ノズル部（14a）から噴射する高い速度の冷媒流により気相冷媒が内部に吸引される気相冷媒吸引口（14c）、および前記高い速度の冷媒流と前記気相冷媒とを混合した冷媒流の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する昇圧部（14b）を有するエジェクタ（14）と、

冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮するとともに、冷媒流出側が前記圧縮機（12）の吸入側に接続される第1蒸発器（15）と、

前記放熱器（13）と前記エジェクタ（14）との間で冷媒流れを分岐して、この冷媒流れを前記気相冷媒吸引口（14c）に導く第1分岐通路（17）と、

前記第1分岐通路（17）に配置され、前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させる第1絞り手段（18）と、

前記第1分岐通路（17）において、前記第1絞り手段（18）よりも冷媒流れ下流側

に配直され、液体を蒸発させて冷媒蒸発圧力を維持するガス蒸発器として構成される。

前記第2蒸発器(19)の冷媒蒸発圧力は前記第1蒸発器(15)の冷媒蒸発圧力よりも低くなっている。

前記第1絞り手段(18)は、前記第2蒸発器(19)の除霜時に前記第1分岐通路(17)を全開する全開機能付きの構成になっていることを特徴とする。

【0007】

これによると、冷媒蒸発圧力の高い第1蒸発器(15)で高温域の冷却能力を発揮するとともに、冷媒蒸発圧力の低い第2蒸発器(19)で低温域の冷却能力を発揮できる。

【0008】

そして、第2蒸発器(19)の除霜時には、第1絞り手段(18)を第1分岐通路(17)の全開位置に操作することにより、放熱器(13)出口の高温高圧冷媒をそのまま第1分岐通路(17)を通して第2蒸発器(19)に導入できる。

【0009】

これにより、第2蒸発器(19)の除霜を良好に行うことができる。しかも、通常時は冷媒の減圧作用を行う第1絞り手段(18)を、除霜時には全開状態にするだけで、特別の部品の追加なしで、極めて簡単な構成で第2蒸発器(19)の除霜を行うことができる。

【0010】

また、放熱器(13)下流側の冷媒を絞り手段(18)を介して第2蒸発器(19)に流入させるから、通常運転時における第2蒸発器(19)の冷媒流量を絞り手段(18)で熱負荷に応じた値に容易に調節できる。

【0011】

なお、「第1分岐通路(17)を全開する全開機能」とは、完全に全開する場合の他に、第1分岐通路(17)の面積を若干量絞りながら開放する場合も含む。つまり、製造上の理由等から第1絞り手段(18)を第1分岐通路(17)の面積を若干量絞りながら開放する構成にせざるを得ない場合がある。これらも、請求項1の「第1分岐通路(17)を全開する全開機能」の概念に含まれるものとする。

【0012】

請求項2に記載の発明では、冷媒を吸入し圧縮する圧縮機(12)と、

前記圧縮機(12)から吐出された高圧冷媒の放熱を行う放熱器(13)と、

前記放熱器(13)下流側の冷媒を減圧膨張させるノズル部(14a)、前記ノズル部(14a)から噴射する高い速度の冷媒流により気相冷媒が内部に吸引される気相冷媒吸引口(14c)、および前記高い速度の冷媒流と前記気相冷媒とを混合した冷媒流の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する昇圧部(14b)を有するエジェクタ(14)と、

冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮するとともに、冷媒流出側が前記圧縮機(12)の吸入側に接続される第1蒸発器(15)と、

前記放熱器(13)と前記エジェクタ(14)との間で冷媒流れを分岐して、この冷媒流れを前記気相冷媒吸引口(14c)に導く第1分岐通路(17)と、

前記第1分岐通路(17)に配置され、前記放熱器(13)下流側の冷媒を減圧膨張させる第1絞り手段(180)と、

前記第1分岐通路(17)において、前記第1絞り手段(180)よりも冷媒流れ下流側に配置され、冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第2蒸発器(19)と、

前記圧縮機(12)から吐出された高圧冷媒を直接前記第2蒸発器(19)に導入するバイパス通路(23)と、

前記バイパス通路(23)に設けられたシャット機構(24)とを備え、

前記第2蒸発器(19)の冷媒蒸発圧力は前記第1蒸発器(15)の冷媒蒸発圧力よりも低くなっている。

前記シャット機構(24)は、前記第2蒸発器(19)の除霜時に前記バイパス通路(23)を開放状態にする常閉式の構成になっていることを特徴とする。

請求項2に記載の発明は、請求項1に対して第2蒸発器(19)の除霜手段を変更している。すなわち、請求項2に記載の発明においては、第2蒸発器(19)の除霜時に、圧縮機(12)吐出側の高温高圧冷媒をバイパス通路(23)を通して第2蒸発器(19)に直接導入して、第2蒸発器(19)の除霜を行うことができる。

【0014】

しかも、第1絞り手段(180)は全開機能を設定する必要がないから、通常の固定絞りまたは可変絞りをそのまま第1絞り手段(180)として使用できる。なお、請求項2による他の作用効果は請求項1と同じである。

【0015】

請求項3に記載の発明では、冷媒を吸入し圧縮する圧縮機(12)と、前記圧縮機(12)から吐出された高圧冷媒の放熱を行う放熱器(13)と、前記放熱器(13)下流側の冷媒を減圧膨張させるノズル部(14a)、前記ノズル部(14a)から噴射する高い速度の冷媒流により気相冷媒が内部に吸引される気相冷媒吸引口(14c)、および前記高い速度の冷媒流と前記気相冷媒とを混合した冷媒流の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する昇圧部(14b)を有するエジェクタ(14)と、

冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮するとともに、冷媒流出側が前記圧縮機(12)の吸入側に接続される第1蒸発器(15)と、

前記放熱器(13)と前記エジェクタ(14)との間で冷媒流れを分岐して、この冷媒流れを前記気相冷媒吸引口(14c)に導く第1分岐通路(17)と、

前記第1分岐通路(17)に配置され、前記放熱器(13)下流側の冷媒を減圧膨張させる第1絞り手段(180)と、

前記第1分岐通路(17)において、前記第1絞り手段(180)よりも冷媒流れ下流側に配置され、冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第2蒸発器(19)と、

前記第1絞り手段(180)をバイパスするバイパス通路(33)と、

前記バイパス通路(33)に設けられたシャット機構(34)とを備え、

前記第2蒸発器(19)の冷媒蒸発圧力は前記第1蒸発器(15)の冷媒蒸発圧力よりも低くなっている、

前記シャット機構(34)は、前記第2蒸発器(19)の除霜時に前記バイパス通路(33)を開放状態にする常閉式の構成になっていることを特徴とする。

【0016】

請求項3に記載の発明は、請求項1、2に対して第2蒸発器(19)の除霜手段を変更している。すなわち、請求項3に記載の発明においては、第2蒸発器(19)の除霜時に、第1絞り手段(180)のバイパス通路(33)をシャット機構(34)にて開放することにより、放熱器(13)出口の高温高圧冷媒をそのままバイパス通路(33)を通して第2蒸発器(19)に導入できる。

【0017】

これにより、第2蒸発器(19)の除霜を良好に行うことができる。しかも、第1絞り手段(180)は全開機能を設定する必要がないから、通常の固定絞りまたは可変絞りをそのまま第1絞り手段(180)として使用できる。

【0018】

請求項4に記載の発明では、請求項1ないし3のいずれか1つに記載のエジェクタサイクルにおいて、前記第1蒸発器(15)と同じ温度帯で冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第3蒸発器(27)を備えていることを特徴とする。

【0019】

これにより、複数の蒸発器(15、27)を用いて同一温度帯での冷却性能を発揮できる。

【0020】

請求項5に記載の発明では、請求項4に記載のエジェクタサイクルにおいて、前記第1

分歧通路（11）ノソノツ、前記第1蒸発器（15）、10ノソノツ上流部にかつて示された分岐し、この冷媒流れを前記第1蒸発器（15）の冷媒流出側と前記圧縮機（12）の吸入側との間に合流させる第2分岐通路（25）と、

前記第2分岐通路（25）に配置され、冷媒を減圧する第2絞り手段（26）とを備え、

前記第2分岐通路（25）において、前記第2絞り手段（24）よりも冷媒流れ下流側部位に前記第3蒸発器（27）を配置したことを特徴とする。

【0021】

このように、第3蒸発器（27）は具体的には第2分岐通路（25）を形成して第2分岐通路（25）中に配置すればよい。

【0022】

請求項6に記載の発明のように、請求項1ないし5のいずれか1つに記載のエジェクタサイクルにおいて、前記第1蒸発器（15）は前記エジェクタ（14）の冷媒流出側に接続すればよい。

【0023】

請求項7に記載の発明では、請求項1ないし5のいずれか1つに記載のエジェクタサイクルにおいて、前記放熱器（13）の冷媒流出側と前記第1蒸発器（15）の冷媒流入側との間に第3絞り手段（30）を設け、前記エジェクタ（14）を前記第3絞り手段（30）と並列に設けることを特徴とする。

【0024】

これによると、第1蒸発器（15）のための専用の第3絞り手段（30）を設けているから、エジェクタ（14）に第1蒸発器（15）の冷媒流量調節機能を分担させる必要がなくなる。このため、エジェクタ（14）は第1、第2蒸発器（15、19）に圧力差を付けるためのポンプ機能に特化できる。

【0025】

これにより、第1、第2蒸発器15、19間に所定の圧力差をつけるように、エジェクタ14の形状を最適に設計することが可能となる。この結果、サイクル運転条件（圧縮機回転数、外気温度、冷却対象空間温度等）の広範囲の変動に対しても、エジェクタサイクルの高効率運転が可能となる。

【0026】

請求項8に記載の発明のように、請求項1ないし7のいずれか1つに記載のエジェクタサイクルにおいて、前記第2蒸発器（19）の除霜時に前記エジェクタ（14）の上流部をシャットするシャット機構（31）を備えれば、第2蒸発器（19）の除霜時に放熱器（13）の冷媒流出側からエジェクタ（14）に流入する高圧冷媒流れを遮断して、第2蒸発器（19）に流入する高圧冷媒量を増大して除霜性能を向上できる。

【0027】

請求項9に記載の発明のように、請求項2に記載のエジェクタサイクルにおいて、前記第2蒸発器（19）の除霜時に前記放熱器（13）の上流部をシャットするシャット機構（32）を備えれば、第2蒸発器（19）の除霜時に圧縮機（12）吐出側から第2蒸発器（19）に流入する高圧冷媒量を増大して除霜性能を向上できる。

【0028】

請求項10に記載の発明では、冷媒を吸入し圧縮する圧縮機（12）と、前記圧縮機（12）から吐出された高圧冷媒の放熱を行う放熱器（13）と、前記放熱器（13）下流側の冷媒を減圧膨張させるノズル部（14a）、前記ノズル部（14a）から噴射する高い速度の冷媒流により気相冷媒が内部に吸引される気相冷媒吸引口（14c）、および前記高い速度の冷媒流と前記気相冷媒とを混合した冷媒流の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する昇圧部（14b）を有するエジェクタ（14）と、

前記エジェクタ（14）から流出した冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第1蒸発器（15）と、

前記第1蒸発器(15)の液相冷媒を前記圧縮機(12)の吸入側に導出する気液分離器(35)と、

前記気液分離器(35)の液相冷媒の出口部を前記気相冷媒吸引口(14c)に接続する分岐通路(36)と、

前記分岐通路(36)に配置され、前記気液分離器(35)から流出した前記液相冷媒を減圧膨張させる絞り手段(180)と、

前記分岐通路(36)において、前記絞り手段(180)よりも冷媒流れ下流側に配置され、冷媒を蒸発させて冷却能力を発揮する第2蒸発器(19)と、

前記圧縮機(12)から吐出された高圧冷媒を直接前記第2蒸発器(19)に導入するバイパス通路(23)と、

前記バイパス通路(23)に設けられたシャット機構(24)とを備え、

前記第2蒸発器(19)の冷媒蒸発圧力は前記第1蒸発器(15)の冷媒蒸発圧力よりも低くなっている、

前記シャット機構(24)は、前記第2蒸発器(19)の除霜時に前記バイパス通路(23)を開放状態にする常閉式の構成になっていることを特徴とする。

【0029】

請求項10は後述の図14に示す第13実施形態に対応するものであって、気液分離器(35)の液相冷媒の出口部を気相冷媒吸引口(14c)に接続する分岐通路(36)を備えし、この分岐通路(36)に絞り手段(180)および第2蒸発器(19)を設けている点が請求項1～9と相違している。

【0030】

このようなサイクル構成において、第1蒸発器(15)よりも低温にて冷媒が蒸発する第2蒸発器(19)の除霜時は、圧縮機(12)吐出側の高圧冷媒を直接第2蒸発器(19)に導入することで、第2蒸発器(19)の除霜を良好に行うことができる。

【0031】

なお、上記各手段の括弧内の符号は、後述する実施形態に記載の具体的手段との対応関係を示すものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【0032】

(第1実施形態)

図1は、本発明の第1実施形態によるエジェクタサイクルを車両用空調冷蔵装置の冷凍サイクルに適用した例を示しており、エジェクタサイクル10には冷媒循環経路11が備えられており、この冷媒循環経路11には冷媒を吸入、圧縮する圧縮機12が配置されている。

【0033】

本実施形態では、この圧縮機12を図示しない車両走行用エンジンによりベルト等を介して回転駆動するようになっている。そして、圧縮機12として吐出容量の変化により冷媒吐出能力を調整できる可変容量型圧縮機を使用している。ここで、吐出容量は1回転当たりの冷媒吐出量に相当するもので、冷媒の吸入容積を変化させることにより吐出容量を変化させることができる。

【0034】

可変容量型圧縮機12としては斜板式が代表的であり、具体的には、斜板の角度を変化させてピストンストロークを変化させて冷媒の吸入容積を変化させる。なお、容量制御機構を構成する電磁式圧力制御装置12aにより斜板室の圧力(制御圧力)を変化させることにより、斜板の角度を外部から電気的に制御できる。

【0035】

この圧縮機12の冷媒流れ下流側には放熱器13が配置されている。放熱器13は圧縮機12から吐出された高圧冷媒と図示しない冷却ファンにより送風される外気(車室外空気)との間で熱交換を行って高圧冷媒を冷却する。

【0036】

吸熱器 1 3 よりもごとに供給され、吸熱器 1 3 には、エントロピー生産量が大きい。このエジェクタ 1 4 は流体を減圧する減圧手段であるとともに、高速で噴出する作動流体の巻き込み作用によって流体輸送を行う運動量輸送式ポンプである (J I S Z 8126 番号 2. 1. 2. 3 等参照)。

【0037】

エジェクタ 1 4 には、放熱器 1 3 から流入する高圧冷媒の通路面積を小さく絞って、高圧冷媒を等エントロビ的に減圧膨張させるノズル部 1 4 a と、ノズル部 1 4 a の冷媒噴出口と同一空間に配置され、後述する第 2 蒸発器 1 9 からの気相冷媒を吸引する吸引口 1 4 c が備えられている。

【0038】

さらに、ノズル部 1 4 a および吸引口 1 4 c の冷媒流れ下流側部位には、昇圧部をなすディフューザ部 1 4 b が配置されている。このディフューザ部 1 4 b は冷媒の通路面積を徐々に大きくする形状に形成されており、冷媒流れを減速して冷媒圧力を上昇させる作用、つまり、冷媒の速度エネルギーを圧力エネルギーに変換する作用を果たす。

【0039】

エジェクタ 1 4 のディフューザ部 1 4 b から流出した冷媒は、第 1 蒸発器 1 5 に流入する。第 1 蒸発器 1 5 は、例えば、車室内空調ユニット (図示せず) の通風路内に設置され、車室内冷房用の冷却作用を果たす。

【0040】

具体的には、車室内空調ユニットの電動送風機 (第 1 送風機) 1 6 により車室内空調空気が第 1 蒸発器 1 5 に送風され、エジェクタ 1 4 にて減圧後の低圧冷媒が第 1 蒸発器 1 5 において車室内空調空気から吸熱して蒸発することにより車室内空調空気が冷却されて冷房能力を発揮する。第 1 蒸発器 1 5 で蒸発した気相冷媒は圧縮機 1 2 に吸入され、再び冷媒循環経路 1 1 を循環する。

【0041】

また、本実施形態のエジェクタサイクルには、冷媒循環経路 1 1 の放熱器 1 3 とエジェクタ 1 4 との間の部位で分岐し、エジェクタ 1 4 の吸引口 1 4 c で冷媒循環経路 1 1 に合流する分岐通路 1 7 が形成されている。

【0042】

この分岐通路 1 7 には、冷媒の流量調節と冷媒の減圧を行う絞り機構 1 8 が配置されている。この絞り機構 1 8 は本例では全開機能付きの絞り機構により構成される。図 2 はこの全開機能付きの絞り機構 1 8 の具体例を示す概略断面図であって、絞り機構 1 8 には、固定絞りを構成する絞り穴 1 8 a と、分岐通路 1 7 を全開するための全開用穴部 1 8 b とを開口した可動板部材 1 8 c が備えられている。

【0043】

そして、この可動板部材 1 8 c を分岐通路 1 7 の横断方向 (冷媒流れ方向 a と直交方向) に移動可能に配置し、この可動板部材 1 8 c をサーボモータ等により構成される電気式アクチュエータ 1 8 d により駆動するようになっている。なお、図 2 (a) は絞り穴 1 8 a が固定絞りとして作用する通常時であり、図 2 (b) は全開用穴部 1 8 b によって分岐通路 1 7 が全開状態にある除霜運転時を示す。

【0044】

この絞り機構 1 8 よりも冷媒流れ下流側部位には第 2 蒸発器 1 9 が配置されている。この第 2 蒸発器 1 9 は、例えば、車両搭載の冷蔵庫 (図示せず) 内部に設置され、冷蔵庫内の冷却作用を果たす。冷蔵庫内の空気を電動送風機 (第 2 送風機) 2 0 により第 2 蒸発器 1 9 に送風するようになっている。

【0045】

なお、本実施形態では可変容量型圧縮機 1 2 の電磁式圧力制御装置 1 2 a、第 1 、第 2 送風機 1 6 、 2 0 、絞り機構 1 8 等は、電気制御装置 (以下 E C U と略称) 2 1 からの制御信号により電気的に制御されるようになっている。第 2 蒸発器 1 9 近傍の所定位置には温度センサ 2 2 が配置され、この温度センサ 2 2 により第 2 蒸発器 1 9 近傍の空気温度を

伏山する。この場合、車両エンジンにより駆動すると、圧縮機12で圧縮されて高温高圧状態となった冷媒は放熱器13に流入して外気により冷却され凝縮する。放熱器13から流出した高圧液冷媒は、冷媒循環経路11を流れる流れと、分岐通路17を流れる流れとに分流する。

【0046】

次に、上記構成において本実施形態の作動を説明する。圧縮機12を車両エンジンにより駆動すると、圧縮機12で圧縮されて高温高圧状態となった冷媒は放熱器13に流入して外気により冷却され凝縮する。放熱器13から流出した高圧液冷媒は、冷媒循環経路11を流れる流れと、分岐通路17を流れる流れとに分流する。

【0047】

ここで、通常時（第2蒸発器19の除霜を行う必要のない時）は分岐通路17の絞り機構18がECU21の制御信号にて図2(a)の通常状態に置かれ、絞り穴18aが分岐通路17中に位置する。このため、絞り穴18aが固定絞りとして作用するので、分岐通路17を流れる冷媒は、絞り機構18で減圧されて低圧状態となる。

【0048】

この低圧冷媒は第2蒸発器19で第2送風機20により送風される冷蔵庫内の空気から吸熱して蒸発する。これにより、第2蒸発器19が冷蔵庫内の冷却作用を発揮する。

【0049】

ここで、第1分岐通路17を通過して第2蒸発器19に流入する冷媒の流量は絞り機構18の絞り穴18aの開度で調節できる。そして、ECU21にて第2送風機20の回転数（送風量）を制御することにより、第2蒸発器19が発揮する冷却対象空間（具体的には冷蔵庫内空間）の冷却能力を制御できる。

【0050】

第2蒸発器19から流出した気相冷媒はエジェクタ14の吸引口14cへ吸引される。一方、冷媒循環経路11を流れる冷媒流れはエジェクタ14に流入し、ノズル部14aで減圧され膨張する。従って、ノズル部14aで冷媒の圧力エネルギーが速度エネルギーに変換され、冷媒は高速度となってノズル噴出口から噴出する。この際に生じるノズル噴出口付近の圧力低下により、吸引口14cから第2蒸発器19にて蒸発した気相冷媒を吸引する。

【0051】

ノズル部14aから噴出した冷媒と吸引口14cに吸引された冷媒は、ノズル部14a下流側で混合してディフューザ部14bに流入する。このディフューザ部14bでは通路面積の拡大により、冷媒の速度（膨張）エネルギーが圧力エネルギーに変換されるため、冷媒の圧力が上昇する。エジェクタ14のディフューザ部14bから流出した冷媒は、第1蒸発器15に流入する。

【0052】

第1蒸発器15では、冷媒が車室内へ吹き出す空調空気から吸熱して蒸発する。この蒸発後の気相冷媒は、圧縮機12に吸入、圧縮され、再び冷媒循環経路11を循環する。ここで、ECU21は、圧縮機12の容量制御を行って、圧縮機12の冷媒吐出能力を制御できる。

【0053】

これにより、第1蒸発器15への冷媒流量を調節するとともに、第1送風機26の回転数（送風量）を制御することにより、第1蒸発器15が発揮する冷却対象空間の冷却能力、具体的には車室内冷房能力を制御できる。

【0054】

ところで、第1蒸発器15の冷媒蒸発圧力はディフューザ部14bで昇圧した後の圧力であり、一方、第2蒸発器19の出口側はエジェクタ14の吸引口14cに接続されているから、ノズル部14aでの減圧直後の最も低い圧力を第2蒸発器19に作用させることができる。

【0055】

これにより、第1蒸発器15の冷媒蒸発圧力（冷媒蒸発温度）よりも第2蒸発器19の冷媒蒸発圧力（冷媒蒸発温度）を低くすることができる。従って、第1蒸発器15により車室内の冷房に適した比較的高温域の冷却作用を発揮できると同時に、第2蒸発器19に

【0056】

ここで、第2蒸発器19は冷媒蒸発温度が0°Cより低い条件にて運転されることがあるので、第2蒸発器19のフロスト（霜付き）による冷却性能の低下が課題となる。

【0057】

そこで、本実施形態においては、第2蒸発器19近傍に温度センサ22を配置し、この温度センサ22の検出温度に基づいて第2蒸発器19のフロスト有無をECU21で判定して第2蒸発器19の除霜を自動的に行うようになっている。

【0058】

すなわち、温度センサ22により検出される第2蒸発器19近傍の空気温度が予め設定したフロスト判定温度Ta以下に低下すると、ECU21は第2蒸発器19のフロスト状態を判定して、全開機能付きの絞り機構18の電気式アクチュエータ18dに制御信号を出力し、この電気式アクチュエータ18dにより可動板部材18cを図2(a)の通常時位置から図2(b)の除霜時位置に移動させる。

【0059】

これにより、可動板部材18cの全開用穴部18bが分岐通路17の通路全体に重合して、分岐通路17を全開状態とする。この結果、放熱器13出口の高温高圧の液冷媒をそのまま分岐通路17を通して第2蒸発器19に導くことができる。これにより、第2蒸発器19表面に付着した霜を溶かすことができ、極めて簡単な構成にて第2蒸発器19の除霜運転を行うことができる。

【0060】

この除霜運転の実行により、第2蒸発器19近傍の空気温度が上記フロスト判定温度T0よりも所定温度 α だけ高い除霜終了温度Tb ($Tb = Ta + \alpha$) まで上昇すると、ECU21にて除霜運転の終了を判定して、全開機能付きの絞り機構18の電気式アクチュエータ18dに通常時位置への復帰のための制御信号を出力する。

【0061】

これにより、電気式アクチュエータ18dが可動板部材18cを図2(b)の除霜時位置から図2(a)の通常時位置に復帰させる。そのため、絞り機構18は再び絞り穴18aによる固定絞りの作用を発揮するので、第2蒸発器19も冷却作用を発揮する状態に復帰する。

【0062】

（第2実施形態）

図3は第2実施形態であり、第1実施形態と同等部分には同一符号を付して説明を省略する。第2実施形態では圧縮機12の吐出側通路と第2蒸発器19の入口部とを直接結合するバイパス通路23を形成し、このバイパス通路23にシャット機構24を設けている。このシャット機構24は具体的には通電されたときのみ開弁する常閉式電磁弁により構成できる。

【0063】

第2実施形態によると、通常時（第2蒸発器19の除霜を行う必要のない時）はECU21の制御信号にてシャット機構24がシャット状態に維持される。このため、バイパス通路23に冷媒が流れないので、圧縮機12の作動によって第1実施形態と同じ冷凍サイクル作動が行われ、第1蒸発器15により車室内の冷房に適した比較的高温域の冷却作用を発揮できると同時に、第2蒸発器19により冷蔵庫内の冷却に適した一段と低温域の冷却作用を発揮できる。

【0064】

そして、温度センサ22により検出される第2蒸発器19近傍の空気温度が予め設定したフロスト判定温度Ta以下に低下すると、ECU21は第2蒸発器19のフロスト状態を判定してシャット機構24に制御信号を出力し、シャット機構24を開放する。

【0065】

この結果、圧縮機12吐出側の高温高圧の気相冷媒がバイパス通路23を通過して第2

然九品上に加へりるゝい、第2蒸発器19の除霜運転を行ふことができる。除霜運転の終了は第1実施形態と同様の判定を行つて、シャット機構24をシャット状態に復帰させればよい。

【0066】

なお、第2実施形態の分岐通路17の絞り機構180は全開機能を設定する必要がないから、通常の固定絞りあるいは可変絞りを用いて構成できる。

【0067】

(第3実施形態)

図4は第3実施形態であり、第1実施形態の変形である。すなわち、第3実施形態では、第1実施形態の構成に加えて、分岐通路17のうち全開機能付きの絞り機構18の上流側部位と、第1蒸発器15と圧縮機12の間の部位とを接続する第2の分岐通路25を追加している。

【0068】

そして、第2分岐通路25には、冷媒の減圧を行う絞り機構26と、この絞り機構26よりも冷媒流れ下流側部位に位置する第3蒸発器27を配置している。絞り機構26は全開機能を設定する必要がないから、通常の固定絞り、可変絞りを用いて構成できる。第3蒸発器27には電動送風機(第3送風機)28により冷却対象空間の空気が送風される。この第3送風機28の作動もECU21により制御される。第3蒸発器27

第3実施形態によると、第3蒸発器27の下流側を第1蒸発器15の下流側に合流して、圧縮機12の吸入側に接続しているので、第1、第3蒸発器15、27の冷媒蒸発圧力はともに圧縮機12の吸入圧とほぼ同一圧力となる。従って、第1、第3蒸発器15、27の冷媒蒸発温度も同一温度となるので、第1、第3蒸発器15、27は互いに同一温度域の冷却作用を果たす。

【0069】

第3実施形態でも、第2蒸発器19の冷媒蒸発温度が第1、第3蒸発器15、27の冷媒蒸発温度よりも低い温度となるが、第2蒸発器19の除霜は全開機能付きの絞り機構18を全開状態にすることにより、第1実施形態と同様に行ふことができる。

【0070】

第3実施形態による第1～第3蒸発器15、19、27の冷却対象空間の具体例としては、例えば、第1蒸発器15により車室内前席側領域を冷房し、第3蒸発器27により車室内後席側領域を冷房し、第2蒸発器19により冷蔵庫内部を冷却する。

【0071】

(第4実施形態)

図5は第4実施形態であり、第2実施形態(図3)の変形である。すなわち、第4実施形態では、第2実施形態の構成に加えて、分岐通路17のうち絞り機構180の上流側部位と、第1蒸発器15と圧縮機12の間の部位とを接続する第2の分岐通路25を追加している。この第2分岐通路25には絞り機構26と第3蒸発器27を配置している。この絞り機構26と第3蒸発器27は第3実施形態と同じものである。

【0072】

以上により、第4実施形態ではバイパス通路23とシャット機構24により第2蒸発器19の除霜を第2実施形態と同様に行ふことができるとともに、第3蒸発器27による冷却作用は第3実施形態と同様に行ふことができる。

【0073】

(第5実施形態)

図6は第5実施形態であり、第1実施形態の変形である。すなわち、第5実施形態では、第1蒸発器15の上流部に専用の絞り機構30を追加し、これに伴つて、エジェクタ14をこの絞り機構30と並列に配置している。なお、絞り機構30としては種々なものが使用可能であるが、例えば、第1蒸発器15の出口冷媒の過熱度を所定値に制御する温度式膨張弁が好適である。

【0074】

第 1 実施形態（図 1）に王雨機能付ヒートエクタ機構 10 を追加し、第 1 実施形態（図 1）に除霜が必要な時に、絞り機構 18 を全開して第 2 蒸発器 19 の除霜運転を実行することは第 1 実施形態と同じである。

【0075】

次に、第 5 実施形態の第 1 実施形態に対する特徴を述べると、第 1 ～第 4 実施形態ではいずれも、エジェクタ 14 と第 1 蒸発器 15 とを直列に接続しているので、エジェクタ 14 は第 1 蒸発器 15 の冷媒流量調節機能を果たすとともに、第 1 蒸発器 15 と第 2 蒸発器 19 との間に冷媒圧力差をつけるポンプ機能を果たしている。

【0076】

従って、エジェクタ 14 の設計に際しては、冷媒流量調節機能とポンプ機能の要求仕様をともに満足する必要があり、そして、第 1 蒸発器 15 の冷媒流量調節機能を確保するために第 1 蒸発器 15 に依存した設計とならざるを得ない。その結果、エジェクタサイクルを高効率で運転することが困難になるという課題がある。

【0077】

そこで、第 5 実施形態では、図 6 に示すように第 1 蒸発器 15 の上流部に専用の絞り機構 30 を配置して、エジェクタ 14 が第 1 蒸発器 15 の冷媒流量調節機能は分担しないですむようにしている。このため、エジェクタ 14 は、第 1 蒸発器 15 と第 2 蒸発器 19 との間に冷媒圧力差をつけるポンプ機能のみに特化できる。

【0078】

これにより、第 1 、第 2 蒸発器 15 、 19 間に所定の圧力差をつけるように、換言すると、エジェクタ 14 の通過流量が所定流量となるように、エジェクタ 14 の形状を最適に設計することが可能となる。この結果、サイクル運転条件（圧縮機回転数、外気温度、冷却対象空間温度等）の広範囲の変動に対しても、エジェクタサイクルの高効率運転が可能となる。

【0079】

（第 6 実施形態）

図 7 は第 6 実施形態であり、第 2 実施形態（図 3 ）の変形である。すなわち、第 6 実施形態は、第 2 実施形態のように第 2 蒸発器 19 の除霜運転のためのバイパス通路 23 およびシャット機構 24 を有するサイクル構成において、第 1 蒸発器 15 の上流部に専用の絞り機構 30 を追加し、この絞り機構 30 にエジェクタ 14 を並列接続したものである。この絞り機構 30 とエジェクタ 14 との並列接続構成は第 5 実施形態（図 6 ）と同じである。

【0080】

従って、第 6 実施形態は、第 2 実施形態と第 5 実施形態とを組み合わせた作用効果を発揮できる。

【0081】

（第 7 実施形態）

図 8 は第 7 実施形態であり、第 3 実施形態（図 4 ）の変形である。すなわち、第 7 実施形態は、第 3 実施形態のように第 2 蒸発器 19 の上流部に除霜運転のための全開機能付きの絞り機構 18 を配置し、かつ、絞り機構 26 および第 3 蒸発器 27 を有するサイクル構成において、第 1 蒸発器 15 の上流部に専用の絞り機構 30 を追加し、この絞り機構 30 にエジェクタ 14 を並列接続したものである。このエジェクタ 14 の並列接続は第 5 実施形態（図 6 ）と同じである。

【0082】

従って、第 7 実施形態は、第 3 実施形態と第 5 実施形態とを組み合わせた作用効果を発揮できる。

【0083】

（第 8 実施形態）

図 9 は第 8 実施形態であり、第 4 実施形態（図 5 ）の変形である。すなわち、第 8 実施形態は、第 4 実施形態のように第 2 蒸発器 19 の除霜運転のためのバイパス通路 23 およ

のシマント機構^ム生^レを用^シし、ハ^ノ、秋^ノ機構^ムりわよ^シ第^レ九^ム機構^ムを用^シるツイノル構成において、第1蒸発器15の上流部に専用の絞り機構30を追加し、この絞り機構30にエジェクタ14を並列接続したものである。このエジェクタ14の並列接続は第5実施形態(図6)と同じである。

【0084】

従って、第8実施形態は、第4実施形態と第5実施形態とを組み合わせた作用効果を發揮できる。

【0085】

(第9実施形態)

図10は第9実施形態であり、第1実施形態の変形である。すなわち、第9実施形態は、第1実施形態のサイクル構成において、冷媒循環通路11のうち、エジェクタ14上流部にシャット機構31を設けている。このシャット機構31は、具体的には通電されたときのみ閉弁する常開式電磁弁により構成できる。

【0086】

第9実施形態によると、通常時(第2蒸発器19の除霜を行う必要のない時)はECU21の制御信号にてシャット機構31が全開状態に維持されるので、エジェクタサイクル10において第1実施形態と同じ作動が行われる。

【0087】

一方、温度センサ22により検出される第2蒸発器19近傍の空気温度に基づいて第2蒸発器19のフロスト状態がECU21にて判定されると、ECU21はシャット機構31に制御信号を出力し、シャット機構31をシャット(全閉)状態にする。これと同時に、ECU21は全開機能付きの絞り機構18に制御信号を出力し、この絞り機構18を全開状態にする。

【0088】

この除霜運転時に、シャット機構31により冷媒循環通路11をシャット状態にするので、放熱器13出口の高温高圧冷媒の全量が絞り機構18を通過して第2蒸発器19に流入する。これにより、第1実施形態に比較して除霜能力を向上でき、第2蒸発器19の除霜を短時間で終了できる。

【0089】

(第10実施形態)

図11は第10実施形態であり、第2実施形態(図3)の変形である。すなわち、第10実施形態は、第2実施形態のサイクル構成において、冷媒循環通路11のうち、エジェクタ14上流部にシャット機構31を設けている。このシャット機構31は、具体的には通電されたときのみ閉弁する常開式電磁弁により構成できる。

【0090】

第10実施形態によると、通常時(第2蒸発器19の除霜を行う必要のない時)はECU21の制御信号にてシャット機構31が全開状態に維持されるので、エジェクタサイクル10において第2実施形態と同じ作動が行われる。

【0091】

一方、温度センサ22により検出される第2蒸発器19近傍の空気温度に基づいて第2蒸発器19のフロスト状態がECU21にて判定されると、ECU21はシャット機構31に制御信号を出力し、シャット機構31をシャット(全閉)状態にする。これと同時に、ECU21はバイパス通路23のシャット機構24に制御信号を出力し、このシャット機構24を全開状態にする。

【0092】

この除霜運転時に、シャット機構31により冷媒循環通路11をシャット状態にするので、バイパス通路23を通過して第2蒸発器19に流入する圧縮機12吐出側の高温高圧の気相冷媒量が増加する。これにより、第2実施形態に比較して除霜能力を向上でき、第2蒸発器19の除霜を短時間で終了できる。

【0093】

図1-2は第1-1実施形態であり、上記第1-0実施形態(図1-1)の変形である。すなわち、第1-1実施形態は、上記第1-0実施形態のシャット機構3-1に対応するシャット機構3-2を放熱器1-3の上流部に設けたものである。このシャット機構3-2も具体的には第9、第10実施形態のシャット機構3-1と同様に常開式電磁弁により構成できる。

【0094】

第1-1実施形態によると、第2蒸発器1-9近傍の空気温度に基づいて第2蒸発器1-9のフロスト状態がECU2-1にて判定されると、ECU2-1はシャット機構3-2に制御信号を出力し、シャット機構3-2をシャット(全閉)状態にする。これと同時に、ECU2-1はバイパス通路2-3のシャット機構2-4に制御信号を出力し、このシャット機構2-4を全開状態にする。

【0095】

この除霜運転時に、シャット機構3-2により放熱器1-3の上流通路をシャット状態にするので、圧縮機1-2吐出側の高温高圧の気相冷媒の全量がバイパス通路2-3を通過して第2蒸発器1-9に流入する。これにより、第1-0実施形態に比較して除霜能力をより一層向上できる。

【0096】

なお、第1-1実施形態において、2つのシャット機構2-4、3-2を三方弁タイプの1つの通路切替機構で構成してもよい。

【0097】

(第1-2実施形態)

図1-3は第1-2実施形態であり、第1実施形態の変形である。すなわち、第1-2実施形態では、第1実施形態の全開機能付き絞り機構1-8の代わりに全開機能を設定しない通常の固定絞り、可変絞りからなる絞り機構1-8-0を用いる。

【0098】

そして、この絞り機構1-8-0と並列にバイパス通路3-3を設け、このバイパス通路3-3にシャット機構3-4を設けている。このシャット機構3-4は具体的には通電されたときのみ開弁する常閉式電磁弁により構成できる。

【0099】

第1-2実施形態によると、通常時(第2蒸発器1-9の除霜を行う必要のない時)はECU2-1の制御信号にてシャット機構3-4がシャット(全閉)状態に維持されるので、絞り機構1-8-0により第2蒸発器1-9への流入冷媒量が調節される。

【0100】

一方、第2蒸発器1-9のフロスト状態が判定されとき(除霜運転時)には、ECU2-1の制御信号にてシャット機構3-4が全開状態に移行する。これにより、放熱器1-3出口の高温高圧の液冷媒がバイパス通路3-3を通過して第2蒸発器1-9に流入し、第2蒸発器1-9の除霜を行うことができる。

【0101】

なお、本第1-2実施形態は第1実施形態の変形例として説明しているが、第1実施形態の他に、全開機能付き絞り機構1-8を有する他の実施形態(第3、第5、第7、第9の各実施形態)においても、全開機能付き絞り機構1-8の代わりに、全開機能を設定しない通常の絞り機構1-8-0、バイパス通路3-3およびシャット機構3-4を設けることにより、本第1-2実施形態の考え方を同様に実施できる。

【0102】

(第1-3実施形態)

第1～第1-2実施形態ではいずれも放熱器1-3出口側で分岐され、エジェクタ1-4の吸引口1-4cに接続される分岐通路1-7を形成し、この分岐通路1-7に絞り機構1-8、1-8-0と第2蒸発器1-9を配置する構成になっているが、第1-3実施形態はこの第2蒸発器1-9の配置を上記の各実施形態とは別の配置にしている。

【0103】

9 4 1 つ、第 1 の大蛇形部 1 4 は内 1 4 に小 1 4 み 1 4 に、第 1 蒸発器 1 5 の外側に圧縮機 1 2 の吸入側との間に、第 1 蒸発器 1 5 の出口冷媒の気液を分離して液相冷媒を溜める気液分離器 3 5 を配置し、気液分離器 3 5 で分離された気相冷媒を圧縮機 1 2 の吸入側に導出し、そして、気液分離器 3 5 で分離された液相冷媒を分岐通路 3 6 側に導出するようになっている。

【0104】

この分岐通路 3 6 は気液分離器 3 5 の底部付近の液冷媒出口とエジェクタ 1 4 の吸引口 1 4 c との間を結合する通路であって、分岐通路 3 6 のうち上流側に絞り機構 1 8 0 が設けられ、この絞り機構 1 8 0 の下流側に第 2 蒸発器 1 9 を配置している。絞り機構 1 8 0 は全開機能を設定しない通常の固定絞り、可変絞りからなる。

【0105】

そして、絞り機構 1 8 0 と第 2 蒸発器 1 9 との間に、シャット機構 2 4 を有するバイパス通路 2 3 の下流端を接続している。

【0106】

第 1 3 実施形態のサイクル構成においても、第 2 蒸発器 1 9 の冷媒蒸発圧力（冷媒蒸発温度）が第 1 蒸発器 1 5 の冷媒蒸発圧力（冷媒蒸発温度）よりも低くなるので、第 1 蒸発器 1 5 により高温域の冷却作用を発揮し、第 2 蒸発器 1 9 により低温域の冷却作用を発揮できる。

【0107】

そして、第 2 蒸発器 1 9 のフロスト状態が判定されたときは、ECU 2 1 の制御信号にてバイパス通路 2 3 のシャット機構 2 4 を開放状態にする。これにより、圧縮機 1 2 吐出側の高温高圧の気相冷媒がバイパス通路 2 3 を通過して第 2 蒸発器 1 9 に流入するので、第 2 蒸発器 1 9 の除霜を行うことができる。

【0108】

（他の実施形態）

なお、本発明は上述の実施形態に限定されることなく、以下述べることく種々変形可能である。

【0109】

（1）上述の実施形態では、第 2 蒸発器 1 9 近傍の空気温度を温度センサ 2 2 により検出して第 2 蒸発器 1 9 の除霜運転を自動的に行うようにしているが、これは具体的な一例を示すにすぎず、除霜運転の自動制御は種々変形できる。例えば、第 2 蒸発器 1 9 近傍の空気温度の代わりに、第 2 蒸発器 1 9 の表面温度を温度センサ 2 2 により検出して、除霜運転の自動制御を行うようにしてもよい。

【0110】

また、第 2 蒸発器 1 9 近傍の冷媒通路内に冷媒温度を検出する冷媒温度センサを設け、第 2 蒸発器 1 9 近傍の冷媒温度に基づいて除霜運転の自動制御を行うようにしてもよい。また、第 2 蒸発器 1 9 近傍の冷媒温度と冷媒圧力は相関関係があるから、第 2 蒸発器 1 9 近傍の冷媒圧力を検出する冷媒圧力センサを設け、第 2 蒸発器 1 9 近傍の冷媒圧力に基づいて除霜運転の自動制御を行うようにしてもよい。

【0111】

更に、上記のごとき温度センサ 2 2 や冷媒圧力センサを廃止して、ECU 2 1 のタイマー機能にてサイクルの起動後に、所定の時間間隔で除霜運転を所定時間のみ自動的に行うようにしてもよい。

【0112】

（2）図 2 では、全開機能付き絞り機構 1 8 として、固定絞りを構成する絞り穴 1 8 a と、分岐通路 1 7 を全開するための全開用穴部 1 8 b とを開口した可動板部材 1 8 c を電気式アクチュエータ 1 8 d により駆動する形式のものを図示しているが、全開機能付き絞り機構 1 8 として、弁体開度をサーボモータ等の電気式アクチュエータにより連続的に変化させる電気式膨張弁を用い、第 2 蒸発器 1 9 の除霜時にはこの電気式膨張弁を全開させるようにしてもよい。

(3) 第1実施形態等では本発明を車両用空調冷蔵装置に適用した例を示したが、冷媒蒸発温度が高温側となる第1蒸発器15と冷媒蒸発温度が低温側となる第2蒸発器18の両方をともに車室内の異なる領域（例えば、車室内前席側領域と車室内後席側領域）の冷房に用いてもよい。

【0114】

また、冷媒蒸発温度が高温側となる第1蒸発器15と冷媒蒸発温度が低温側となる第2蒸発器18の両方をともに冷蔵庫内の冷却に用いてもよい。つまり、冷媒蒸発温度が高温側となる第1蒸発器15により冷蔵庫内の冷蔵室を冷却し、冷媒蒸発温度が低温側となる第2蒸発器18により冷蔵庫内の冷凍室を冷却するようにしてもよい。

【0115】

(4) 上述の実施形態では、冷媒の種類を特定しなかったが、冷媒はフロン系、HC系の代替フロン、二酸化炭素(CO₂)など蒸気圧縮式冷凍サイクルに適用できるものであればよい。

【0116】

なお、ここでフロンとは炭素、フッ素、塩素、水素からなる有機化合物の総称であり、冷媒として広く使用されているものである。フロン系冷媒には、HFCF(C(ハイドロ・クロロ・フルオロ・カーボン)系冷媒、HFC(ハイドロ・フルオロ・カーボン)系冷媒等が含まれており、これらはオゾン層を破壊しないため代替フロンと呼ばれる冷媒である。

【0117】

また、HC(炭化水素)系冷媒とは、水素、炭素を含み、自然界に存在する冷媒物質のことである。このHC系冷媒には、R600a(イソブタン)、R290(プロパン)などがある。

【0118】

(5) 上述の第1～第12実施形態では、いずれも気液分離器を用いていない構成例を示したが、放熱器13の下流側に冷媒の気液分離を行って液冷媒のみを下流側に導出するレシーバを配置してもよい。また、第13実施形態に示す気液分離器35を第1～第12実施形態の圧縮機12の吸入側に配置して、圧縮機12に気相冷媒のみを吸入させるようにしてもよい。

【0119】

(6) 上述の実施形態では、圧縮機12として可変容量型圧縮機を用い、この可変容量型圧縮機12の容量をECU21により制御して、圧縮機12の冷媒吐出能力を制御するようしているが、圧縮機12として固定容量型圧縮機を用い、この固定容量型圧縮機12の作動を電磁クラッチによりオンオフ制御し、圧縮機12のオンオフ作動の比率を制御して、圧縮機12の冷媒吐出能力を制御するようにしてもよい。

【0120】

また、圧縮機12として電動圧縮機を用いる場合は、電動圧縮機12の回転数制御により冷媒吐出能力を制御できる。

【0121】

(7) 上述の実施形態において、エジェクタ14として、第1蒸発器15の出口冷媒過熱度などを検知してエジェクタ14のノズル14aの冷媒流路面積、つまり流量を調節する可変流量型のエジェクタを使用すれば、ノズル14aから噴出する冷媒圧力(吸引する気相冷媒の流量)を制御することができる。

【図面の簡単な説明】

【0122】

【図1】本発明の第1実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図2】第1実施形態における全開機能付き絞り機構の概略作動説明図である。

【図3】第2実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図4】第3実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図5】第4実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 6】第 6 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 7】第 6 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 8】第 7 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 9】第 8 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 10】第 9 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 11】第 10 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 12】第 11 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 13】第 12 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【図 14】第 13 実施形態によるエジェクタサイクルを示す模式図である。

【符号の説明】

【0 1 2 3】

1 2 … 壓縮機、1 3 … 放熱器、1 4 … エジェクタ、1 4 a … ノズル部、

1 4 b … ディフューザ部（昇圧部）、1 4 c … 吸引口（気相冷媒吸引口）、

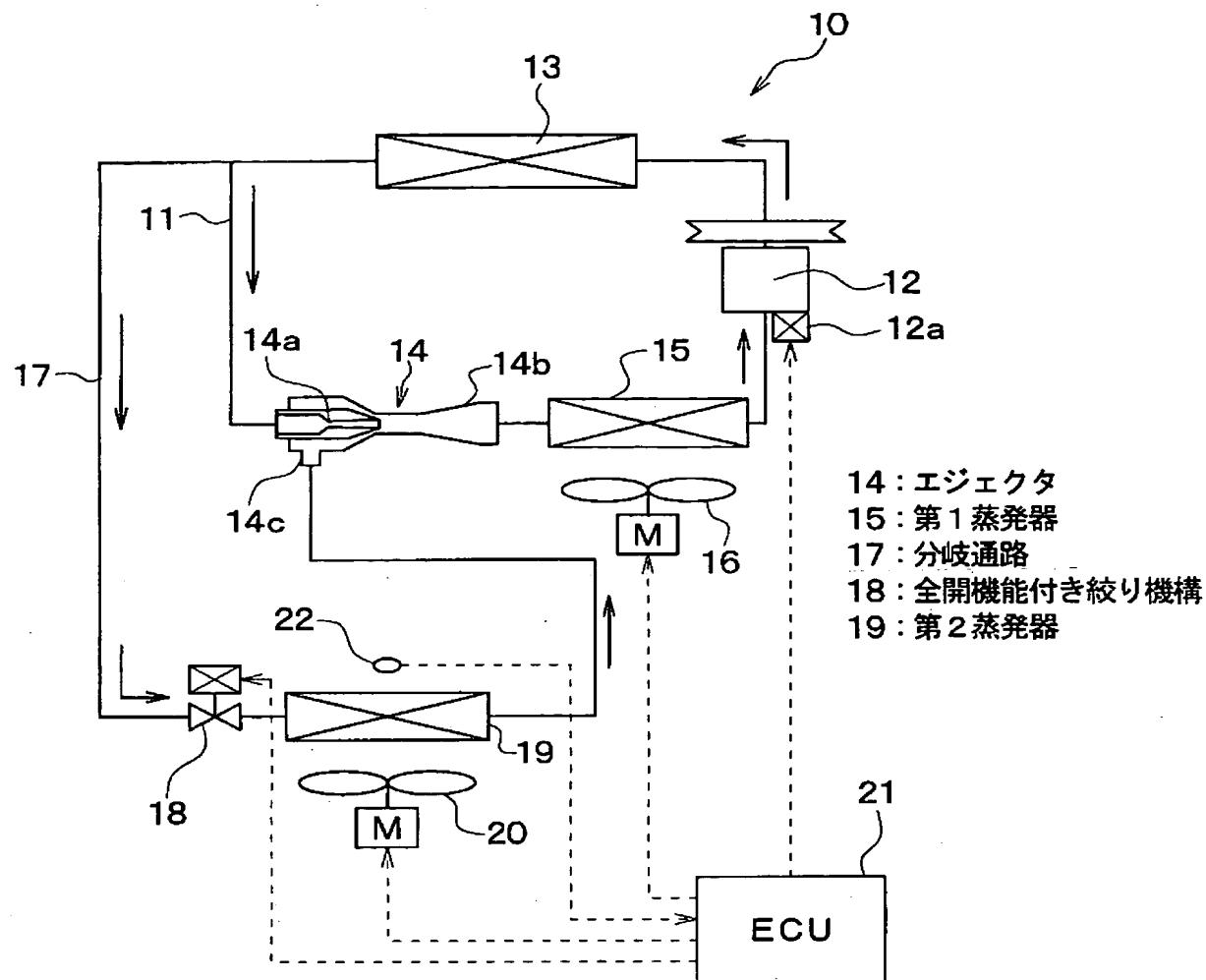
1 5 … 第 1 蒸発器、1 7、2 5、3 6 … 分岐通路、

1 8、2 6、1 8 0 … 絞り機構（絞り手段）、1 9 … 第 2 蒸発器、

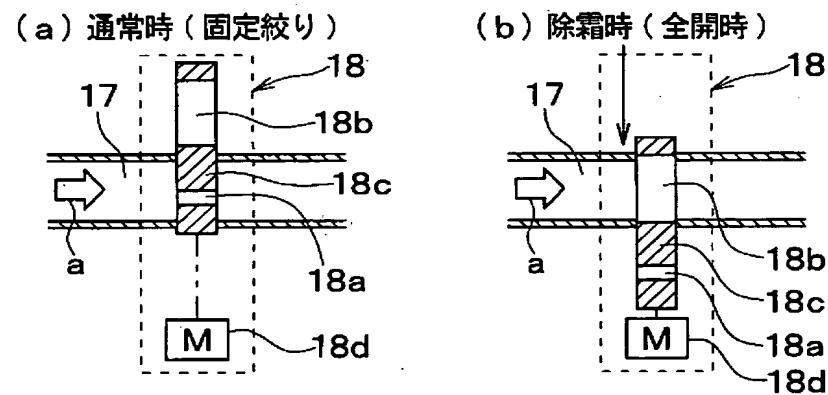
2 1 … E C U（制御手段）、2 3、3 3 … バイパス通路、

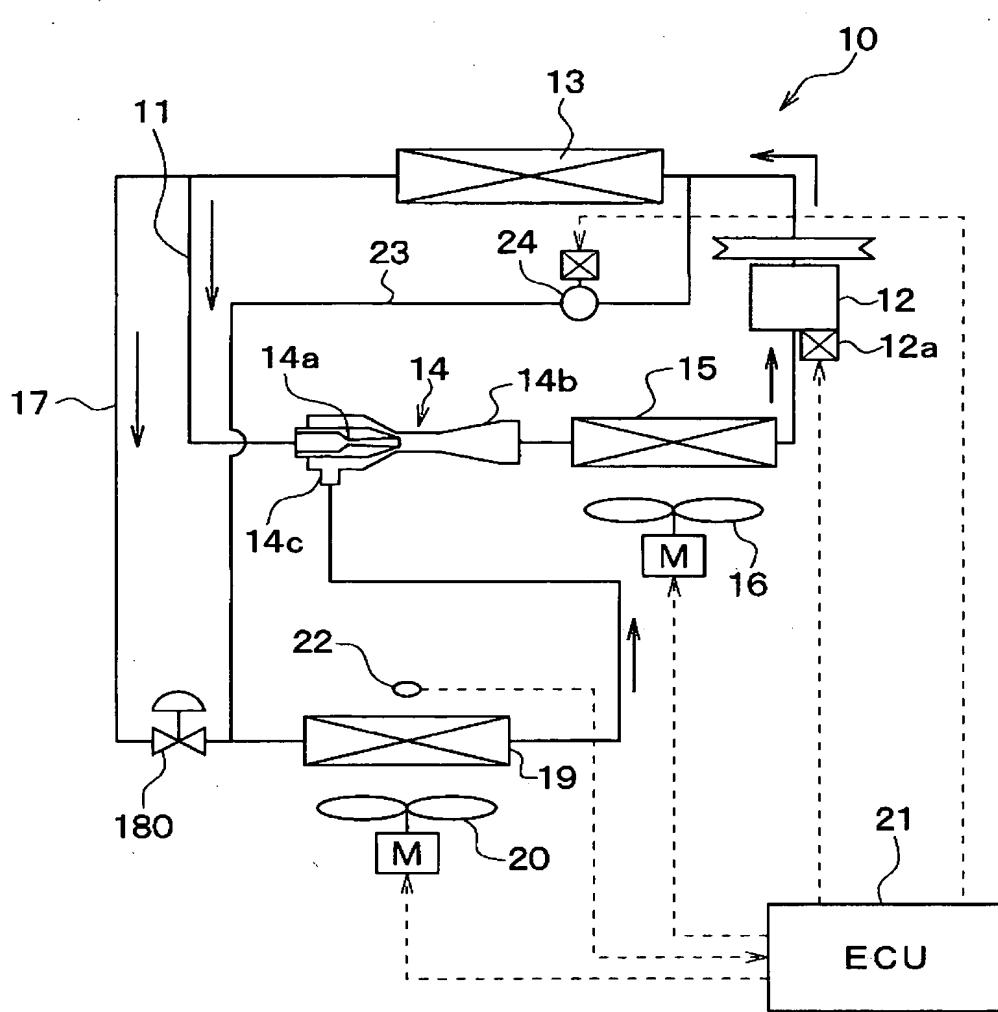
2 4、3 1、3 2、3 4 … シャット機構、2 7 … 第 3 蒸発器。

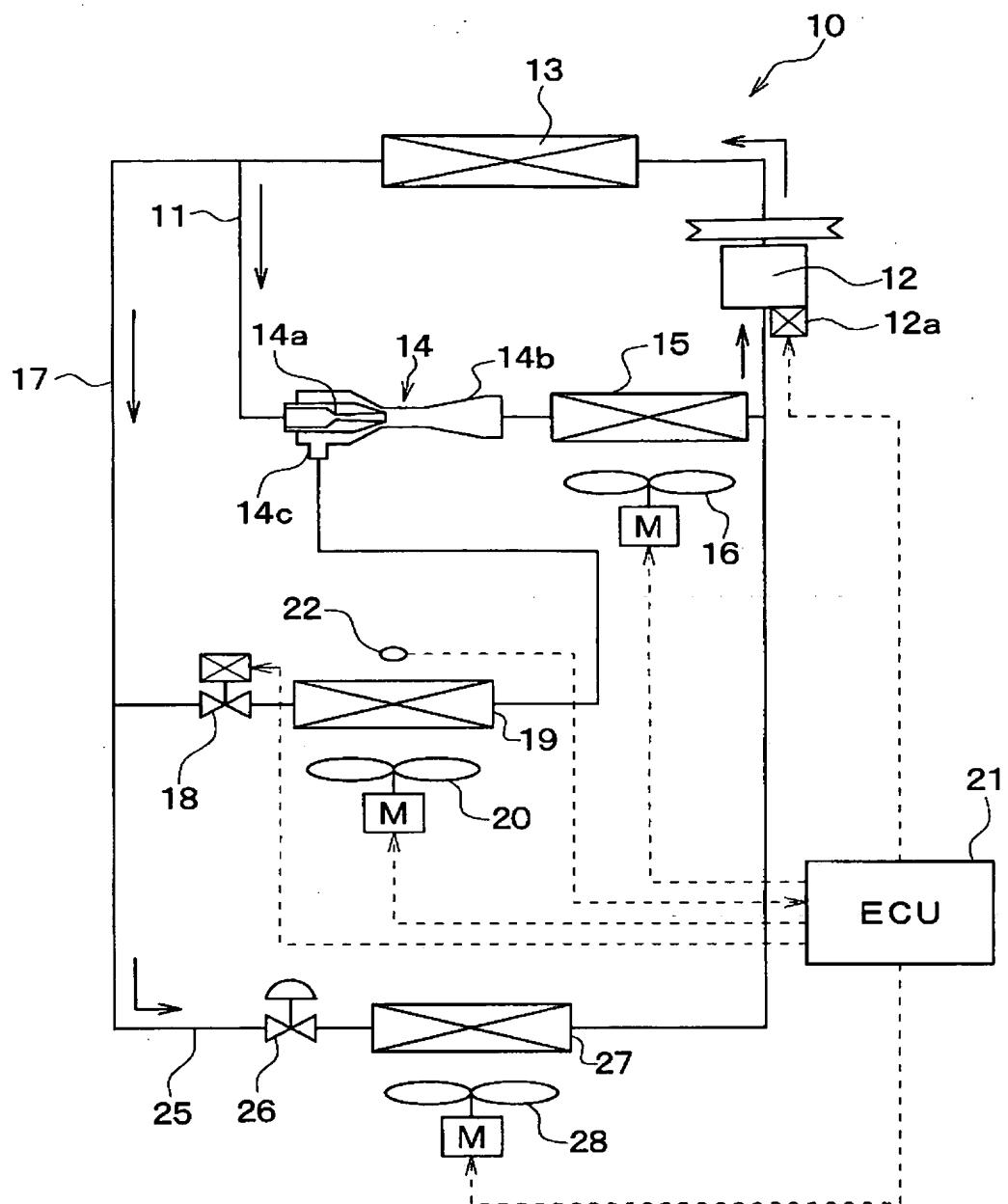
【図 1】

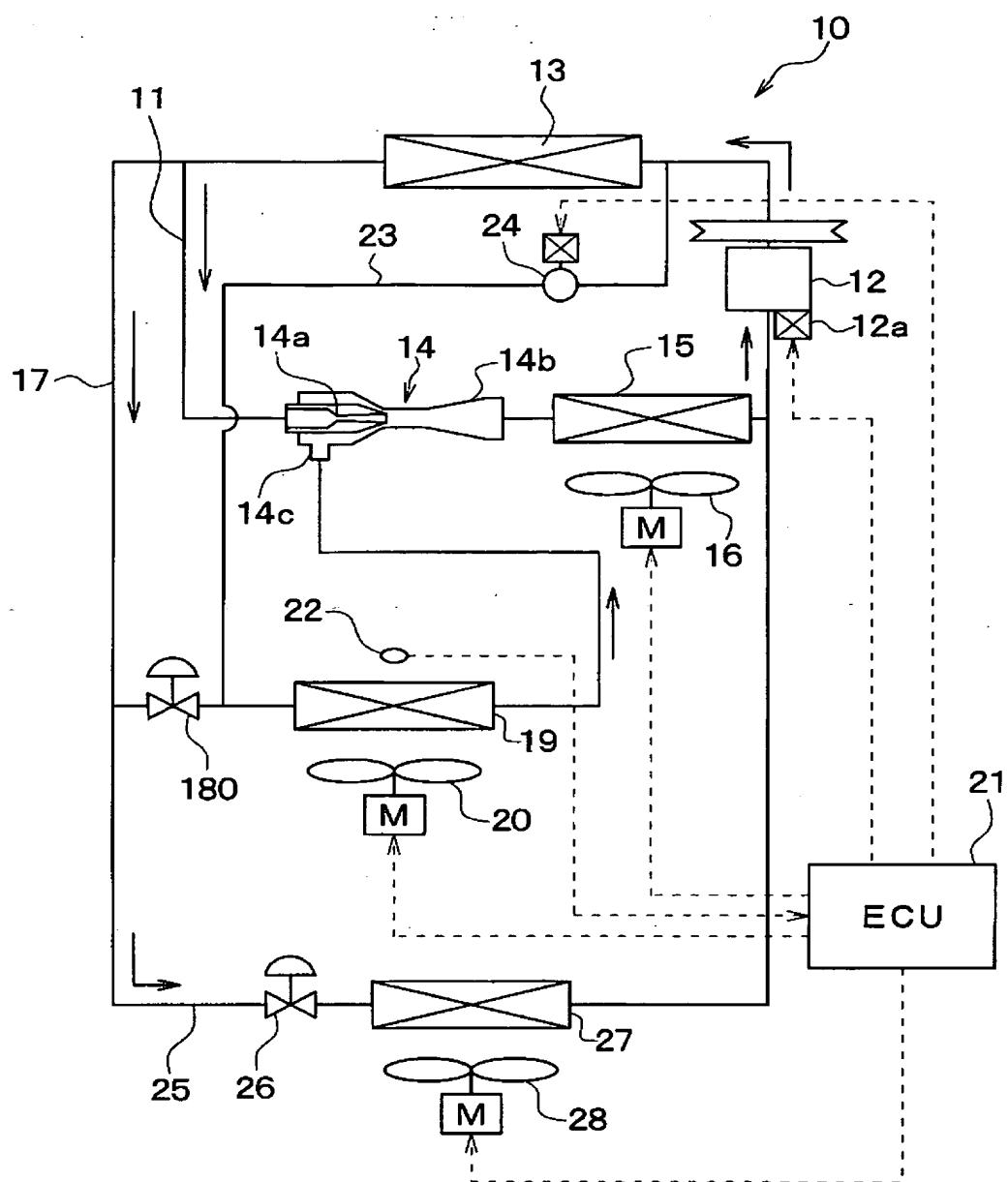


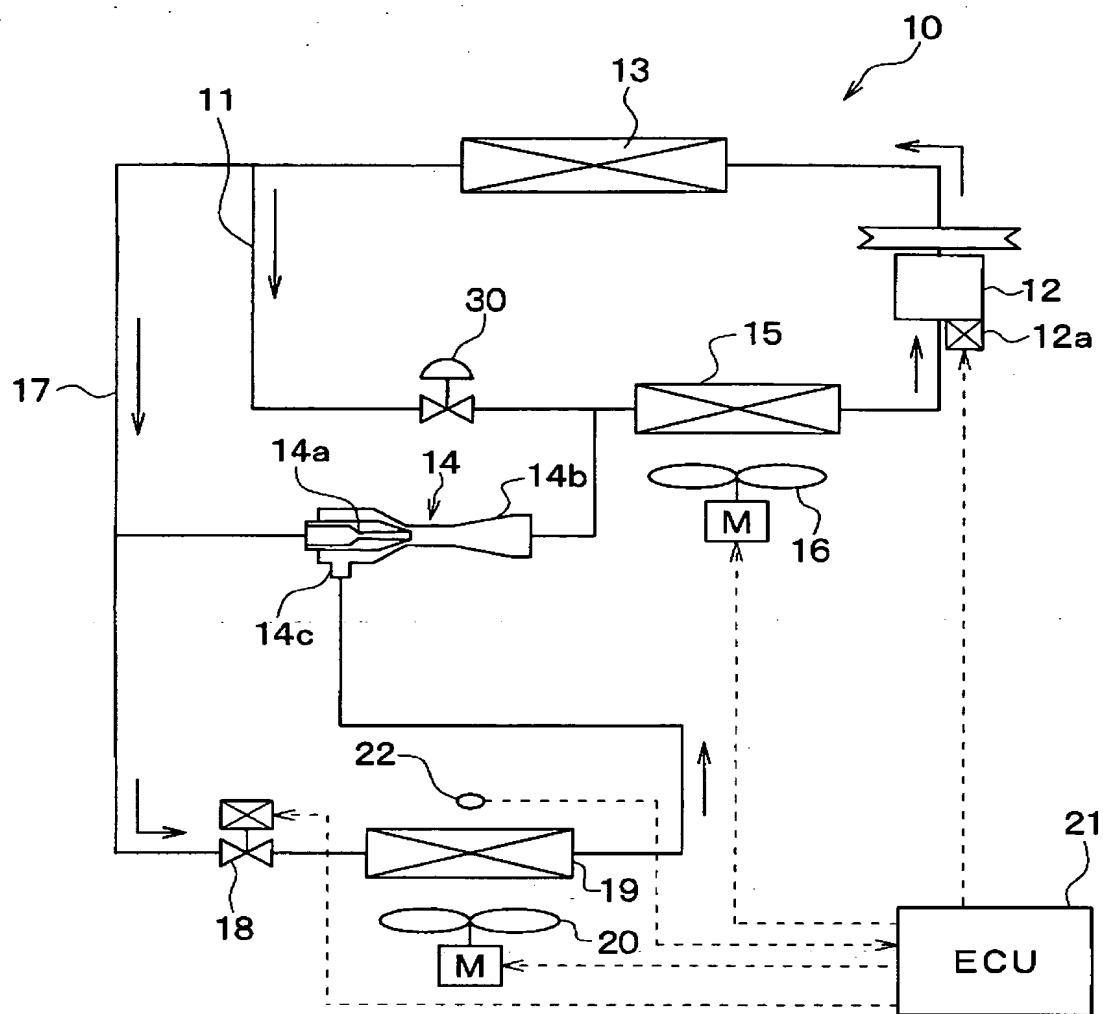
【図 2】

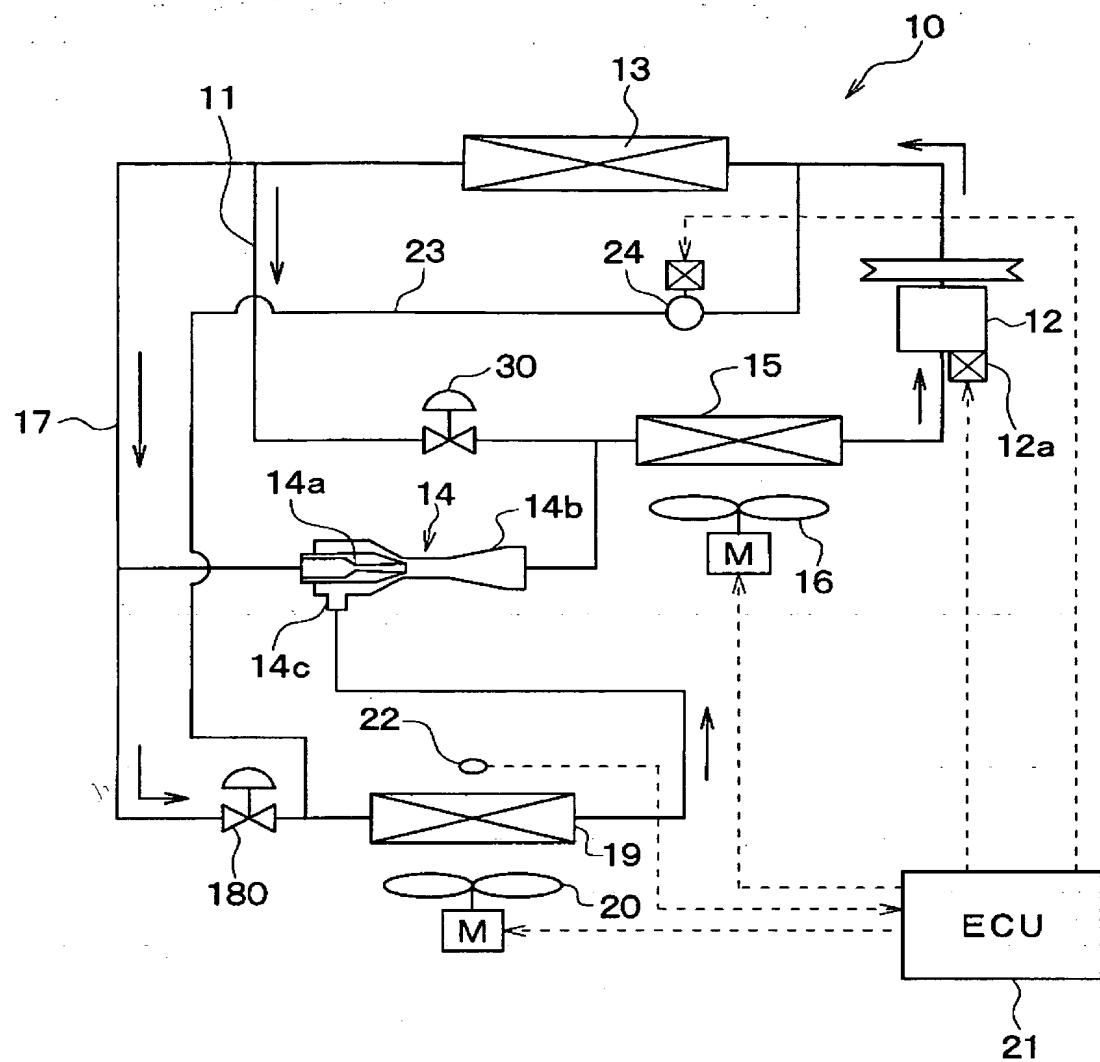


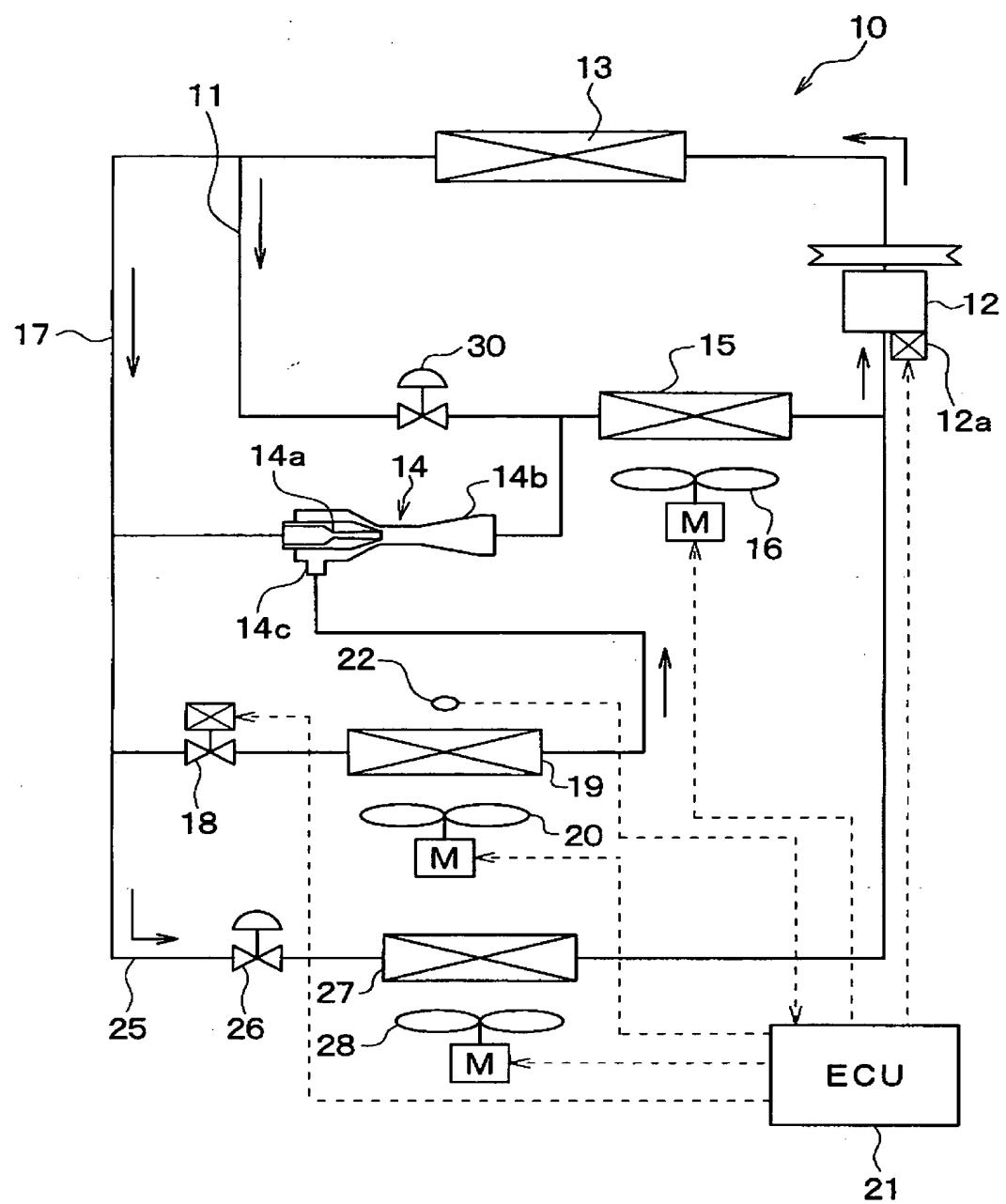


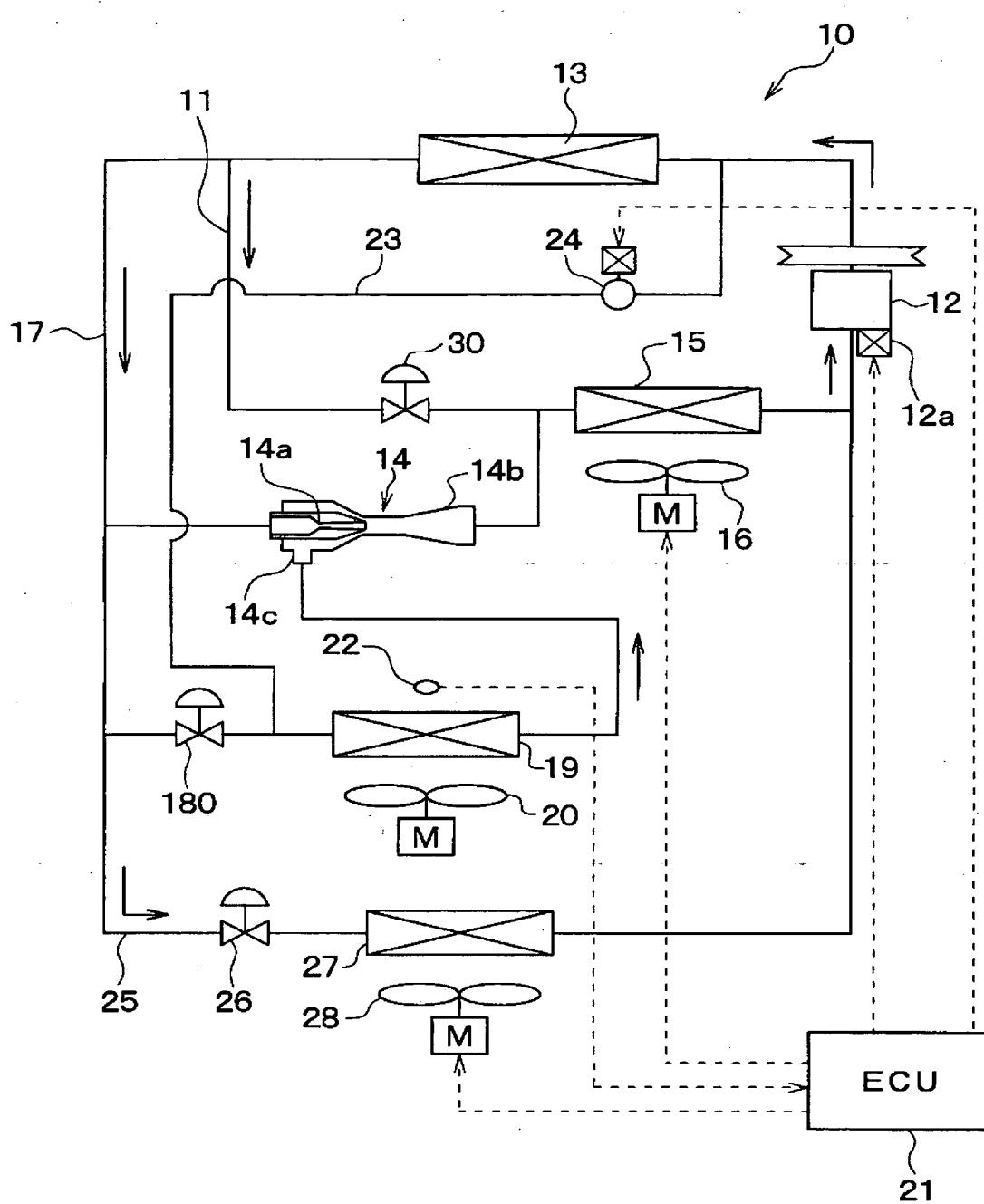


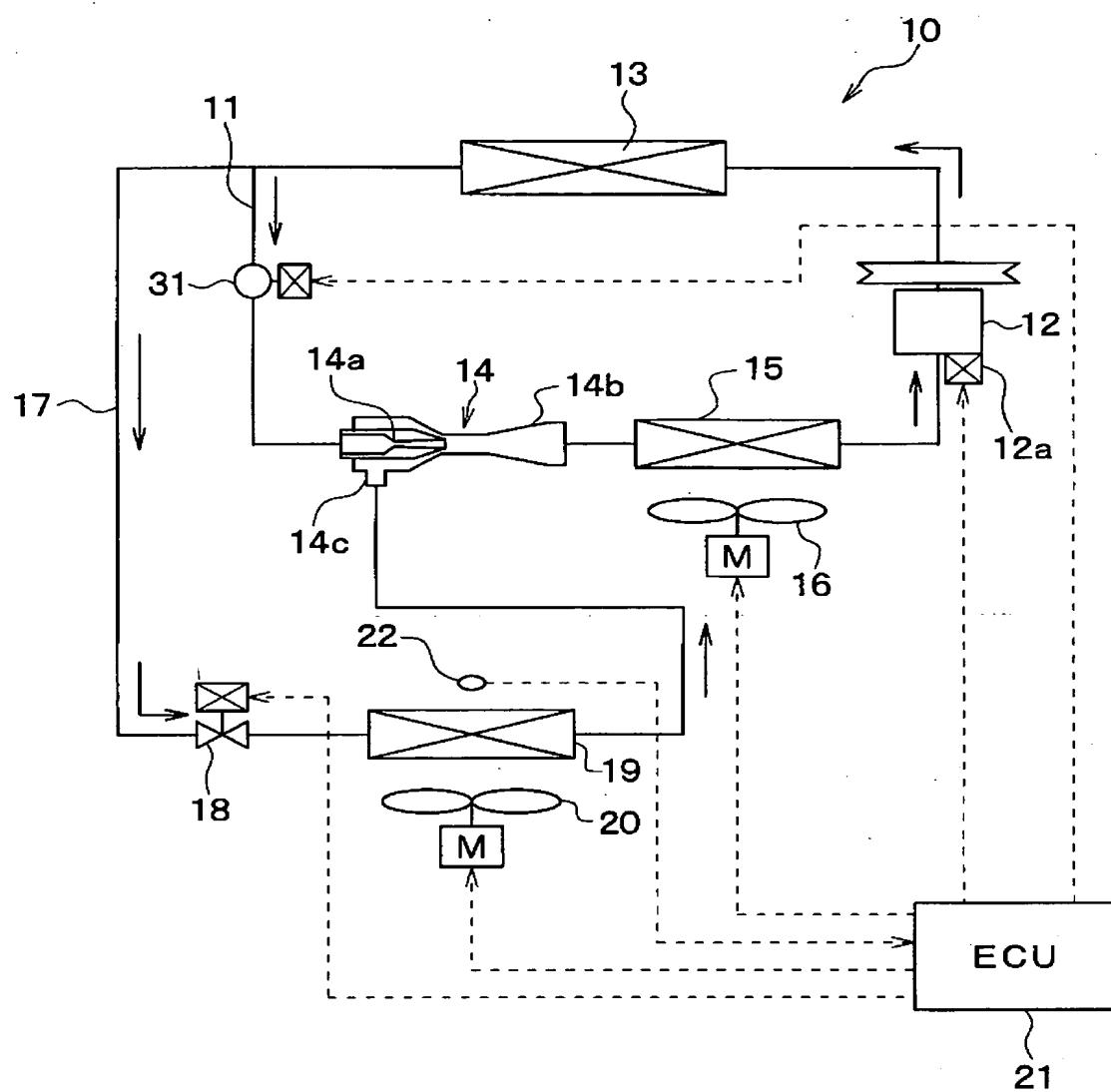


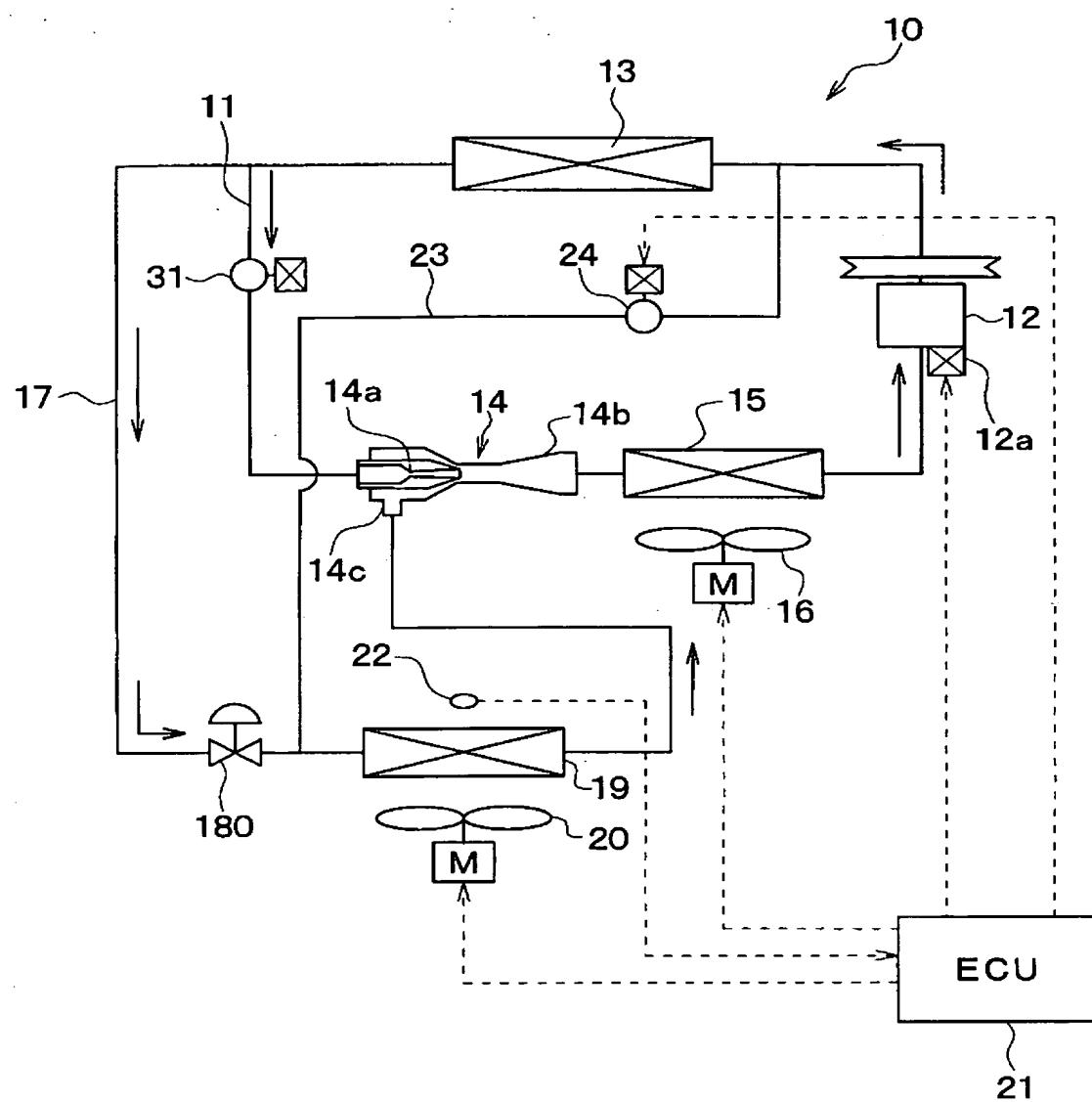


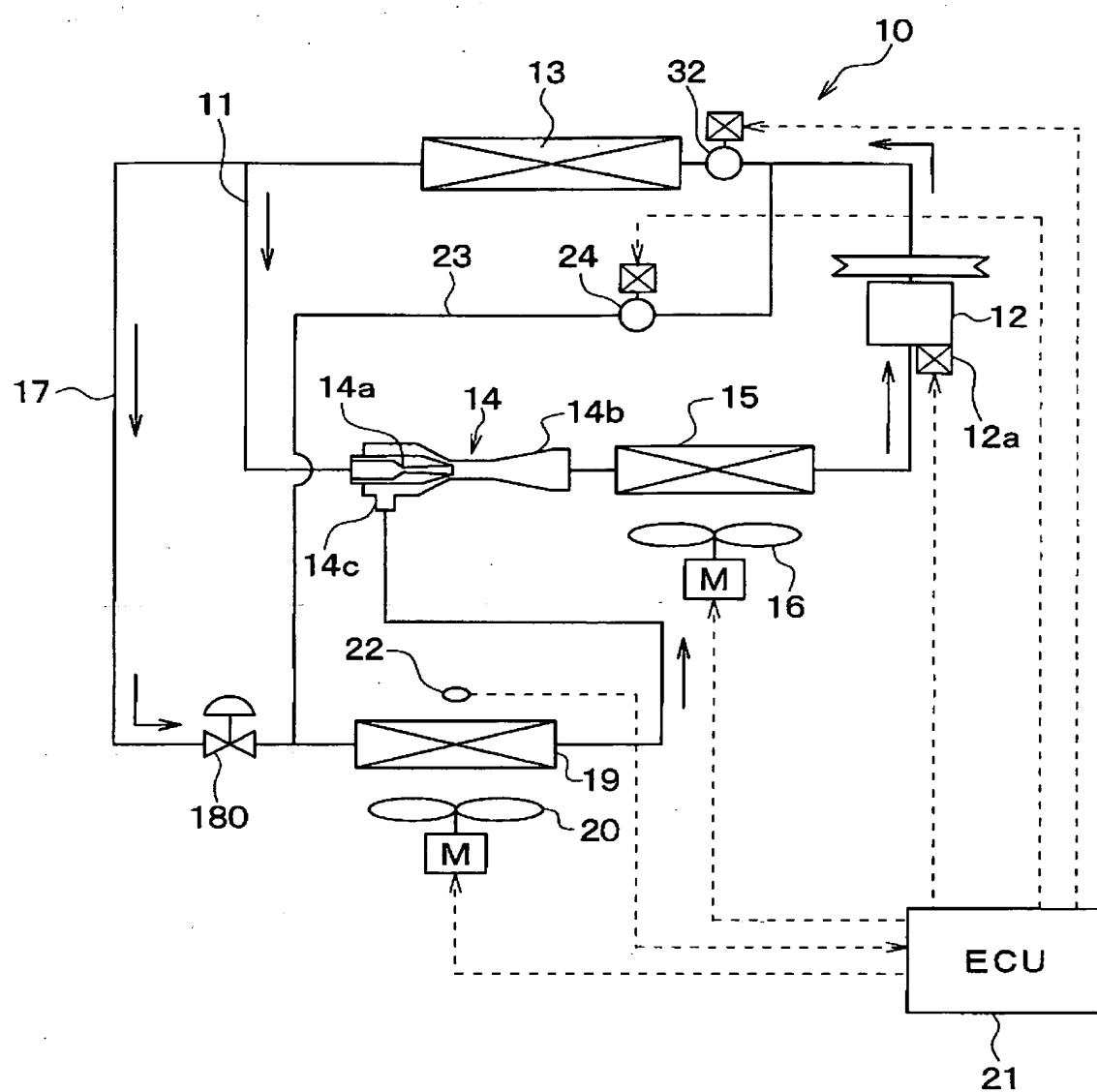


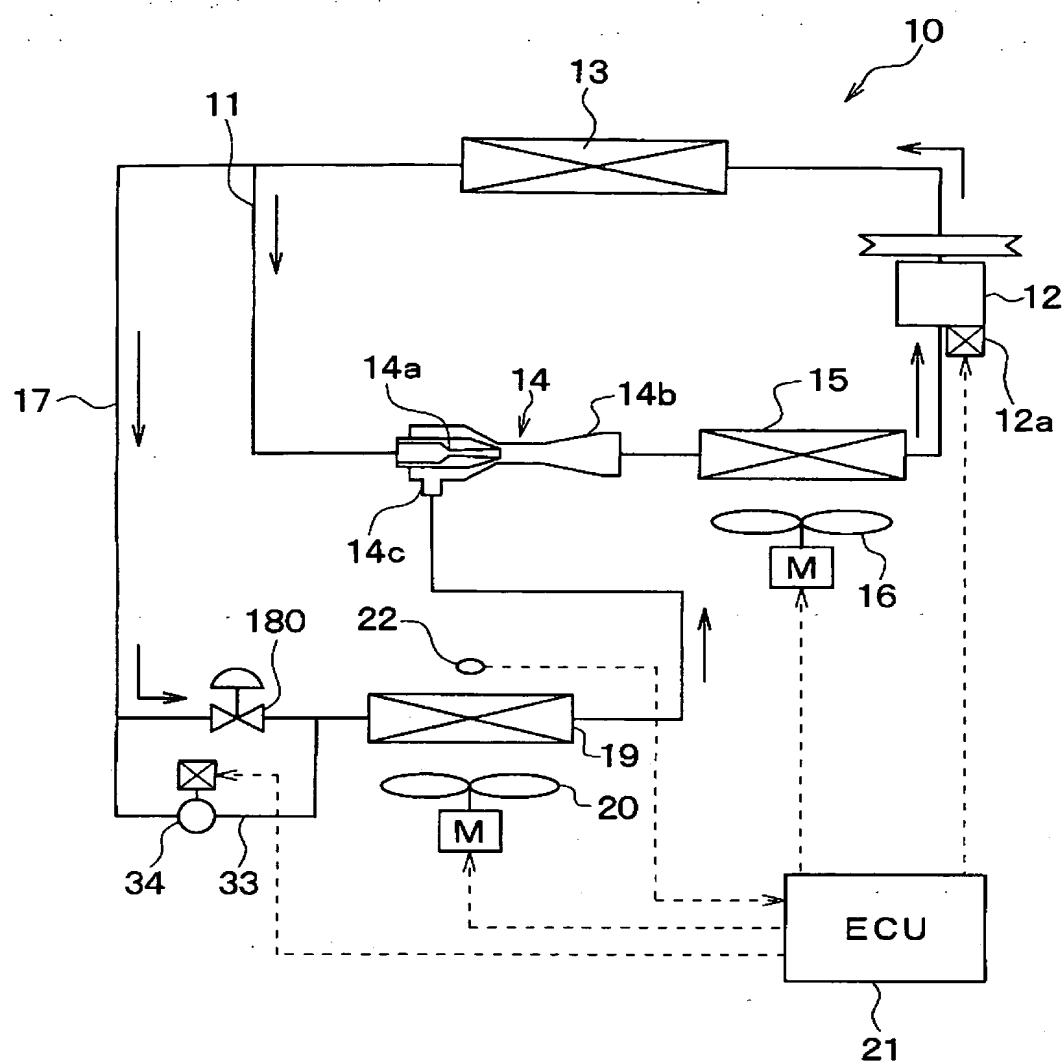


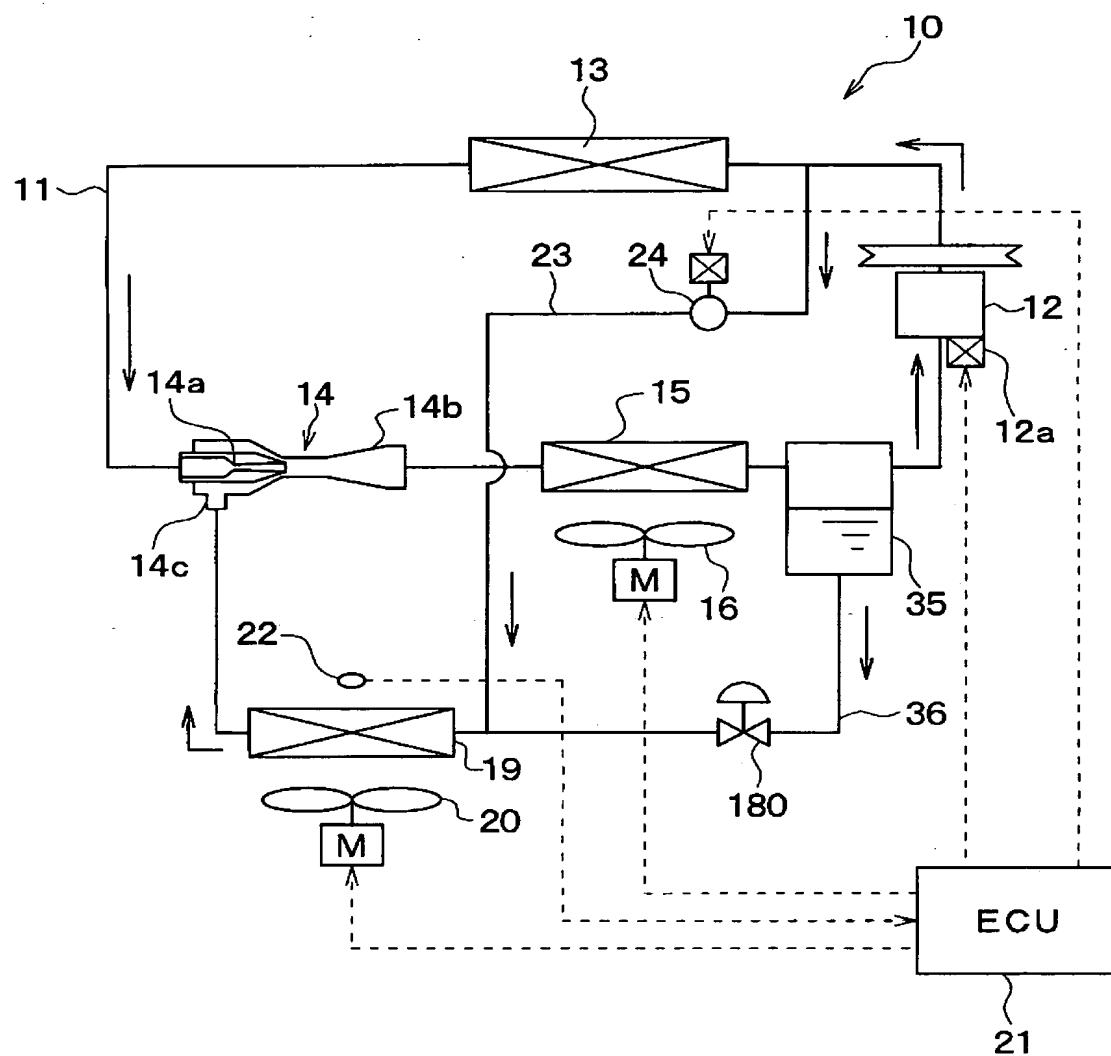












【課題】 複数の蒸発器を備えるエジェクタサイクルにおいて、簡素な構成で蒸発器の除霜機能を達成できるようにする。

【解決手段】 エジェクタ14から流出した冷媒を蒸発させる第1蒸発器15と、放熱器13とエジェクタ14との間で冷媒流れを分岐して、この冷媒流れをエジェクタ14の気相冷媒吸引口14cに導く分岐通路17と、分岐通路17に配置された絞り機構18と、絞り機構18よりも冷媒流れ下流側に配置された第2蒸発器19とを備え、絞り機構18は、第2蒸発器19の除霜時に分岐通路17を全開する全開機能付きの構成である。

【選択図】

図1

000004260

19961008

名称変更

愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

株式会社デンソー

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP2005/017447

International filing date: 22 September 2005 (22.09.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-275152
Filing date: 22 September 2004 (22.09.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 15 November 2005 (15.11.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.